

妙法院境内・法住寺殿跡

2013年

古代文化調査会

妙法院境内・法住寺殿跡

2013年

古代文化調査会

例 言

1. 本書は、古代文化調査会が京都市東山区馬町通妙法院北門前妙法院前側町 447-1 他において、ホテル建設に伴い実施した妙法院境内・法住寺殿跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は京都東山ホスピタリティアセット特定目的会社より委託を受けた古代文化調査会の上村憲章・家崎孝治が担当した。
3. 調査にあたっては、京都市文化市民局文化財保護課の指導を受けた。
4. 本書の編集・執筆は上村がおこなった。
5. 図面及び遺構・遺物の整理、遺構の製図は上村がおこない、遺物の実測・製図は板谷桃代がおこなった。
6. 本書で使用した方位及び座標の数値は世界測地系（新測地系）平面直角座標系 VI による。記載した数値は m 単位で、水準は T.P.（東京湾平均海面高度）である。
7. 本書で使用した地図は、国土地理院発行の 25000 分の 1（京都東南部）、京都市都市計画局発行の 2500 分の 1 の地図（五条大橋）を調整し、使用した。
8. 土壌及び土器・瓦類の色調の表記は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修「新版標準土色帖」に準じた。
9. 遺物番号は実測図・写真ともに共通している。
10. 発掘調査及び遺物整理に際して、下記の方々の御指導・御協力を得ることができた。記して感謝の意を表します。（所属・敬称略、五十音順）

網 伸也 家原圭太 上村和直 宇野隆志 馬瀬智光 奥井智子 北田栄造
木村 央 黒田泰雅 幸若美枝 小森 武 近藤章子 鈴木久史 田島慶典
田淵清晃 タン テン ヤン 津々池惣一 西森正晃 長谷川行孝 堀 大輔
南 孝雄 宮原健吾 吉田 勝

(株) 明輝建設 (株) 大高建設 (株) オートアンドハウス

京都東山ホスピタリティアセット特定目的会社 (財) 京都市埋蔵文化財研究所

(有) 京都編集工房 日本リグランド (株) パシフィックスタージャパン (株)

妙法院門跡

本文目次

妙法院境内・法住寺殿跡

I	調査の経緯	1
II	調査の経過	1
III	遺構	5
IV	遺物	16
V	小結	25

図版目次

図版1	遺跡	1	調査前風景（西から）
		2	調査区近景（東から）
図版2	遺跡	1	第1面全景（東から）
		2	第2面全景（東から）
図版3	遺跡	1	第2面全景（北西から）
		2	第2面段差部分・石組（北西から）
図版4	遺跡	1	第2面段差部分・石組除去後（北西から）
		2	南壁西部（北東から）
図版5	遺跡	1	土壙28土師器皿出土状況（北から）
		2	溝15・土壙46（東から）
		3	溝15セクション1（西から）
		4	溝15セクション2（北から）
		5	溝15セクション3（北から）
		6	土壙23堆積状況（北から）
		7	土壙23（北から）
		8	土壙36（東から）
図版6	遺跡	1	溝240・溝260（北から）
		2	溝240セクション（南から）

- 3 溝 260 東肩部の石組 (南西から)
 - 4 溝 260 東肩部の石組 (西から)
 - 5 溝 260・溝 235 (北から)
 - 6 土壙 272 (北から)
 - 7 井戸 234 (東から)
 - 8 井戸 82 (北から)
- 図版 7 遺跡
- 1 土壙 83 (東から)
 - 2 柱穴 132 (北から)
 - 3 柱穴 357 (北から)
 - 4 柱穴 357 根石 (北から)
 - 5 柱穴 375 (北から)
 - 6 柱穴 375 掘形断割り・根石 (北東から)
 - 7 柱穴 340 (北から)
 - 8 柱穴 268 (北から)
- 図版 8 遺跡
- 1 柱穴 127 (北から)
 - 2 柱穴 128 (北から)
 - 3 柱穴 100 (北から)
 - 4 柱穴 150 (北から)
 - 5 柱穴 155 (北から)
 - 6 柱穴 313 (北から)
 - 7 柱穴 423 (北から)
 - 8 柱穴 165 (北から)
- 図版 9 遺跡
- 1 土壙 266 (北から)
 - 2 柱穴 168 (北から)
 - 3 柱穴 193 (北から)
 - 4 柱穴 176 (北から)
 - 5 柱穴 215 (北から)
 - 6 左：柱穴 223、右：221 (北から)
 - 7 柱穴 230 (北から)
 - 8 土壙 190 (北から)
- 図版 10 遺跡
- 1 柱穴 287 (北から)
 - 2 柱穴 288 (北から)
 - 3 左：柱穴 292、中央：291、右：290 (北から)
 - 4 柱穴 281 (北から)
 - 5 左奥：柱穴 433、右：353 (北から)

- 6 柱穴 249 (北から)
- 7 柱穴 431 (北から)
- 8 柱穴 349 (北から)
- 図版 11 遺跡 1 柱穴 379 (南から)
- 2 柱穴 231 (北から)
- 3 柱穴 305 (北から)
- 4 柱穴 378 (北から)
- 5 柱穴 342 (北から)
- 6 柱穴 343 (北から)
- 7 柱穴 398 (北から)
- 8 柱穴 317 (北から)
- 図版 12 遺物 柱穴 416・柱穴 153・土壙 250・土壙 162・土壙 83・土壙 78・土壙 361 出土遺物
- 図版 13 遺物 土壙 274・柱穴 107・柱穴 177・井戸 82・井戸 234・溝 235 出土遺物
- 図版 14 遺物 溝 235・土壙 46・溝 15・土壙 28 出土遺物
- 図版 15 遺物 土壙 250・井戸 82・溝 240・土壙 28 出土遺物
- 図版 16 遺物 土壙 250・土壙 251・溝 240・土壙 340・溝 260・溝 235・柱穴 443・土壙 28 出土遺物
- 図版 17 遺物 井戸 82・柱穴 268・柱穴 340 出土遺物

挿 図 目 次

図 1	調査地点位置図	1
図 2	調査地位置図と法住寺殿復元図	2
図 3	土壙 83 実測図	5
図 4	第 1 面平面実測図西半部	6
図 5	第 1 面平面実測図東半部	7
図 6	第 2 面平面実測図西半部	8
図 7	第 2 面平面実測図東半部	9
図 8	南壁実測図	10
図 9	東壁・西壁実測図	11
図 10	柱穴 357 実測図	13
図 11	柱穴 375 実測図	13
図 12	柱穴 340 実測図	13
図 13	柱穴 268 実測図	13
図 14	溝 260 石組実測図	13

图 15	土壙 190 实测图	14
图 16	土壙 266 实测图	14
图 17	柱穴 80·84 实测图	14
图 18	土壙 23 实测图	14
图 19	沟 15 断面实测图	15
图 20	土壙 28 实测图	15
图 21	柱穴 416 出土土器实测图	16
图 22	柱穴 153 出土土器实测图	16
图 23	土壙 250 出土土器实测图	16
图 24	土壙 162 出土土器实测图	16
图 25	土壙 83 出土土器实测图	16
图 26	土壙 78 出土土器实测图	16
图 27	土壙 361 出土土器实测图	17
图 28	土壙 274 出土土器实测图	17
图 29	柱穴 107 出土土器实测图	17
图 30	柱穴 177 出土土器实测图	17
图 31	井户 82 出土土器实测图	18
图 32	土壙 118 出土土器实测图	18
图 33	沟 240 出土土器实测图	18
图 34	土壙 340 出土土器实测图	18
图 35	井户 234 出土土器实测图	18
图 36	土壙 272 出土土器实测图	18
图 37	沟 260 出土土器实测图	18
图 38	沟 235 出土土器实测图	18
图 39	土壙 244 出土土器实测图	18
图 40	土壙 46 出土土器实测图	19
图 41	土壙 36 出土土器实测图	19
图 42	沟 15 出土土器实测图	19
图 43	土壙 28 出土土器实测图	19
图 44	出土瓦拓影·实测图	20
图 45	出土瓦拓影·实测图	21
图 46	出土有孔瓦拓影·实测图	23
图 47	出土石造物拓影·实测图	24

表 目 次

表1	遺物概要表	24
表2	掲載土器一覧表	26

妙法院境内・法住寺殿跡

I 調査の経緯

調査地は、京都市東山区馬町通妙法院北門前妙法院前側町 447-1 である。

当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地・平安京跡の妙法院境内及び法住寺殿跡にあたる。当地に京都東山ホスピタリティアセット特定目的会社によるホテル建設の計画がなされ、工事に先立ち京都市文化財保護課が試掘調査を実施した。試掘調査の結果、中世から江戸時代の遺構が良好な状態で遺存していることが判明し、発掘調査の必要性が考慮されるに至った。京都市の指導の下、施主との協議の結果、当調査会が発掘調査をおこなうこととなった。

II 調査の経過

敷地は妙法院の北側に接し、同院の旧境内にあり、また古くは法住寺殿北殿（七条殿）の北東部にあたる。この北東部には平重盛の邸宅「小松殿」の庭園の名残と考えられている「積翠園」がある。



図1 調査地点位置図(1/25,000)

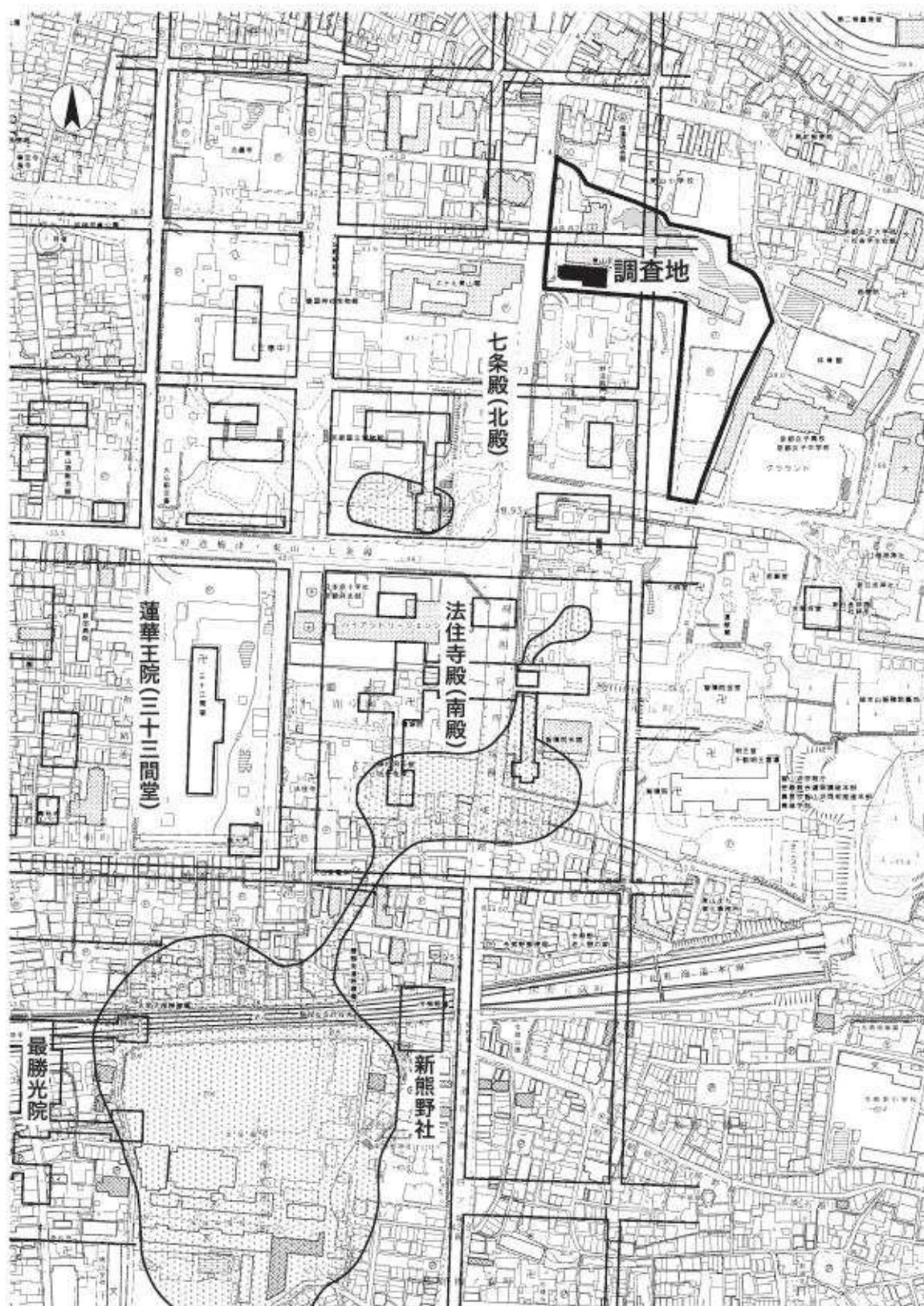


図 2 調査地位置図と法住寺殿復元図(1/5,000)

法住寺殿の前身となる法住寺は10世紀末に文献に現れる。「988（永延2）年、右大臣藤原為光、法住寺を供養す。五間堂舎一字・法華三昧堂一字・常行三昧堂一字を建立す」（日本紀略・扶桑略記）と伝えている。11世紀代には『御堂閔白記』『小右記』などにも記載があり、12世紀の半ば以降には後白河上皇の御所「法住寺殿」として『兵範紀』『山塊紀』『玉葉』などに頻繁に現れる。「北殿」＝「七条殿」の記述もよく見られるが、木曾義仲の襲撃後（1183年）、再建されるものの後白河法皇没（1192年）後は「七条殿」の記述は殆ど見られなくなる。

法住寺殿は朝観行幸の様子が『年中行事絵巻』にも描かれていることもあって、復元案も示されている。1962年に杉山信三氏^{註2}、1994年に江谷寛氏^{註3}らが復元案を提示している。

1330（元徳2）年、山科より「イマノ比叡（日吉）渋谷竹中ノ在所」へ仏光寺が移転してくる。仏光寺は豊臣秀吉の大仏殿方広寺の造営に伴い、当時秀吉が居住していたという竜臥城跡地すなわち現在の仏光寺がある地へさらに移転することとなる。

妙法院は比叡山に始まり、天台宗延暦寺の別院として平安末期には洛中にあったが応仁・文明の乱で焼失。秀吉の東山一帯の再開発で仏光寺を移転させ、大規模な整地と大仏造営とを行い、「大仏経堂」として妙法院を現在の地に移転させた。1596（文禄5）年には妙法院で千僧供養が行われている。

「積翠園」はもともと妙法院の境内にあり江戸時代の元禄年間ごろに整備され作られたものであるが、池については古い様式を残しており、最初の作庭は平安時代末期にさかのぼるものと考えられている。

調査は平成24（2012）年11月15日から平成25（2013）年2月15日までの間、調査面積571.37㎡を2面にわたって実施し、平面直角座標系VIによる基準点測量データを使用し、4mメッシュのグリッドを設定し、遺構遺物の記録をとる方法をおこなった。現場の基本図は20分の1で実測した。

敷地西南部の表土は標高52.6～52.2mほどで東大路通に通じる出入り口付近はさらに急に傾斜する。東大路通の標高は約49mで敷地部分とは3.2mほどの落差がある。調査区は以前の病院の建物が地中深くに達している池や中央部分を避けて、敷地の西側部分の南部で遺構の遺存が認められた部分に設定された。

現表土下0.6～0.7mほどで東部では地山をベースとした遺構面が確認され、またY-20.520m付近より西側では整地層の上面が現れた。地山はこの付近で大きく削り取られ、西側が低くなっておりこの部分に整地土が入れられていた。この整地は秀吉の1586（天正14）年の大仏殿造営時に行われたもので、この上面はそれ以降の遺構が成立することとなる。調査地の敷地が妙法院から切り離されるのは終戦後の事であるためこの面で検出される遺構は妙法院関連の遺構と言うことになる。攪乱は通信病院に敷地が移管されて以降のものである（第1面）。

この整地層が埋めていたものはY-20.520mで南北方向の肩を持つ段差である。この段差は東側の遺構面から1.2～1.5m低く作り出されている。自然の傾斜を切り取って平坦地を作り出し

ている状態となっている（第2面）。

この整地層の下で検出された最も古い遺構はV期新～VI期古（12世紀末～13世紀初頭）くらいの特徴をもつ土師器皿を伴う柱穴があり、またこの段差の肩は北側でやや東に振れる方位を示し、これは蓮華王院や法住寺殿の調査などで認められているこの地区の方位の振れとほぼ一致するなどのことから、法住寺殿造営の時期にこの段差が作り出されたものと見られる。法住寺北殿の東限を示すものと思われる。

法住寺北殿は徐々に衰退したものと見られるが、この面で検出された遺構群は中世後半にかけてかなりの数が見られ、段差部分に石組をもつ溝なども認められることから、仏光寺関連の遺構群であると思われる。やがて、秀吉の東山開発にともないこの痕跡は土中にうもれることとなり、土壙や溝など妙法院関連の遺構が見られるようになり、現在にいたることとなる。

Ⅲ 遺 構

平安時代後期に Y-20,520 m 付近で南北方向の段が設けられ、その面の状態が 12 世紀後半から 16 世紀末まで続く。中世半ばから後半にかけての堆積（南壁 1 の 32 層、南壁 2 の 38・39 層、西壁 34 層）が一部認められるものの、秀吉の方広寺（大仏）造営に伴う一体の整地（南壁 1 の 16～24 層、南壁 2 の 12～36 層、西壁の 11・12～17・33 層）によって段は一気には埋められて、妙法院が成立する。

平安時代後期～鎌倉時代（12～13 世紀）

柱穴 153（図版 2 の 2・3 の 1、図 6）

9-C 区で検出。掘形は径 0.30m 程で、深さは検出面から 0.22m である。10YR4/3 にぶい黄褐色泥砂が堆積する。平安京 V 期新～VI 期古の土器が出土している。

柱穴 217（図版 2 の 2・3 の 1、図 6）

8-C 区で検出。掘形は東西 0.28m、南北 0.23m 程で、西側に径 0.20m ほどの柱当りを確認。10YR3/4 暗褐色泥砂が堆積する。深さは 0.15m を測る。

この時期の遺構は柱穴が中心でほかには、柱穴 201・280・378・382、土壙 356、溝 108 がある。

鎌倉時代（13 世紀）

土壙 250（図版 2 の 2・3 の 1、図 6・7）

6～7-C～D 区で検出。東西 4.12m、南北 2.70m を測る大型の凹みで、深さは 0.9m。底部東寄りに径 0.65m、深さ 0.32m でさらに一段下がる。湧き水を溜めたりする曲物等が設置されていた可能性がある。10YR3/1 黒褐色泥砂が堆積する。平安京 VI 期中くらいの土器が出土する。

土壙 83（図版 2 の 2・3 の 1・7 の 1、図 3・6）

9～10-B 区で検出。掘形の径は南北 1.65m～東西 1.12m、深さ 0.25m を測る。平安京 VII 期古くらいの土器が出土する。

他に鎌倉時代と思われる遺構は柱穴 130・133・142・157・158・176・219・418、土壙 162、溝 180 がある。

鎌倉時代～室町時代前期（13～14 世紀）

土壙 274（図版 2 の 2・3 の 1、図 7）

5～6-B 区で検出。不整形で東西 1.85m、南北 0.6m 以上を測り、深さ 0.5～0.8m、10YR3/4 暗褐色泥砂が堆積する。平安京 VII 期新くらいの土器が出土する。

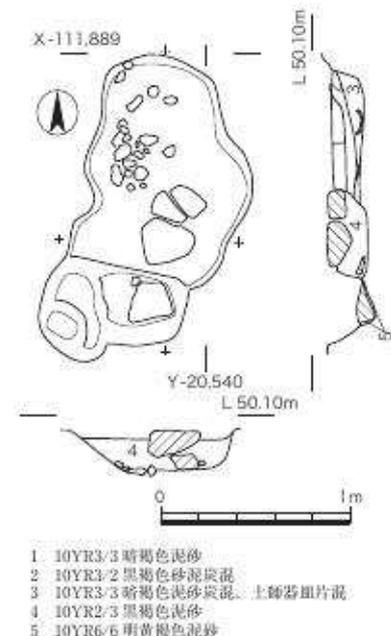


図 3 土壙 83 実測図 (1/40)

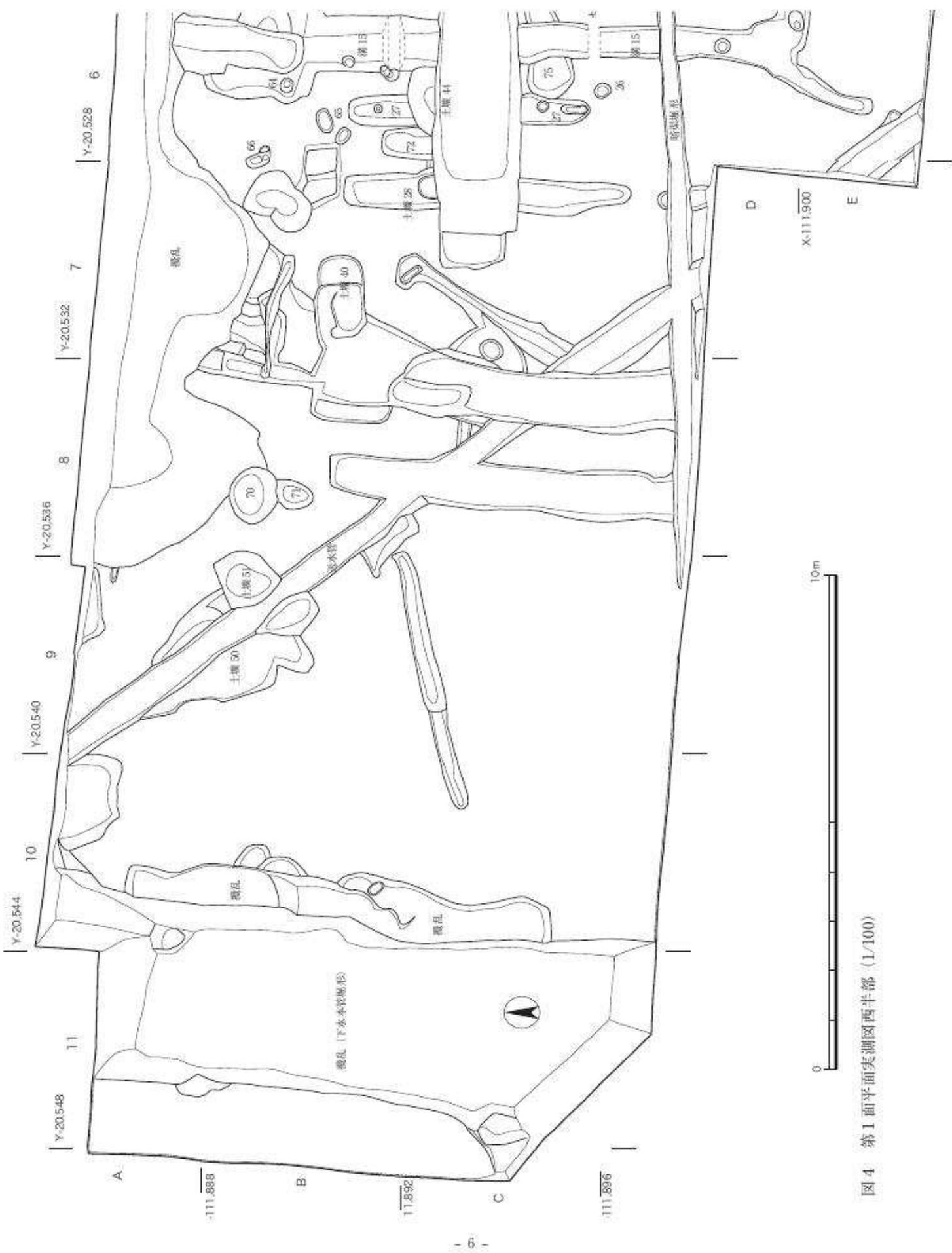


图4 第1面平面图西半部 (1/100)

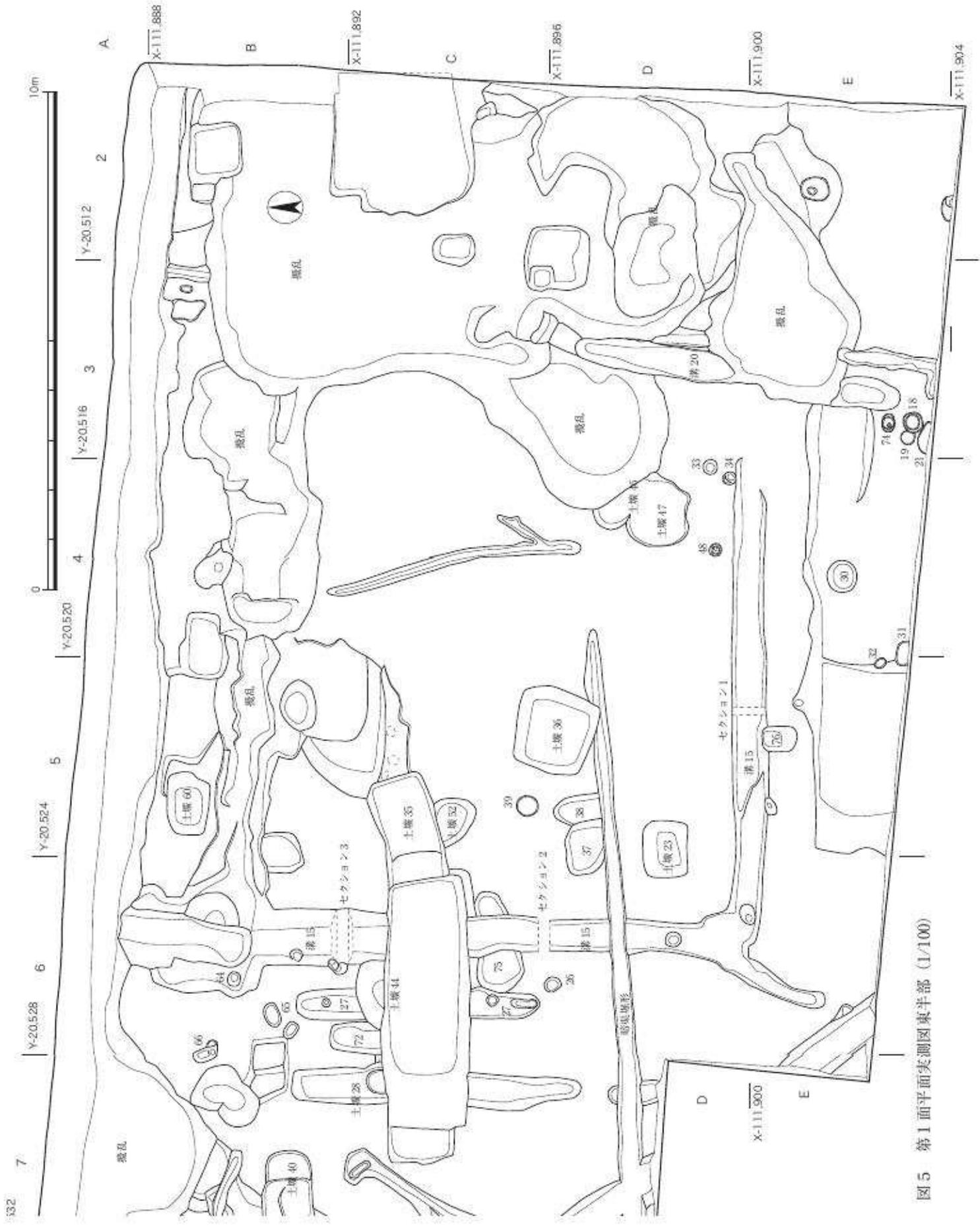


図5 第1面平面実測図東半部 (1/100)



图6 第2面平面突湖图西半部 (1/100)

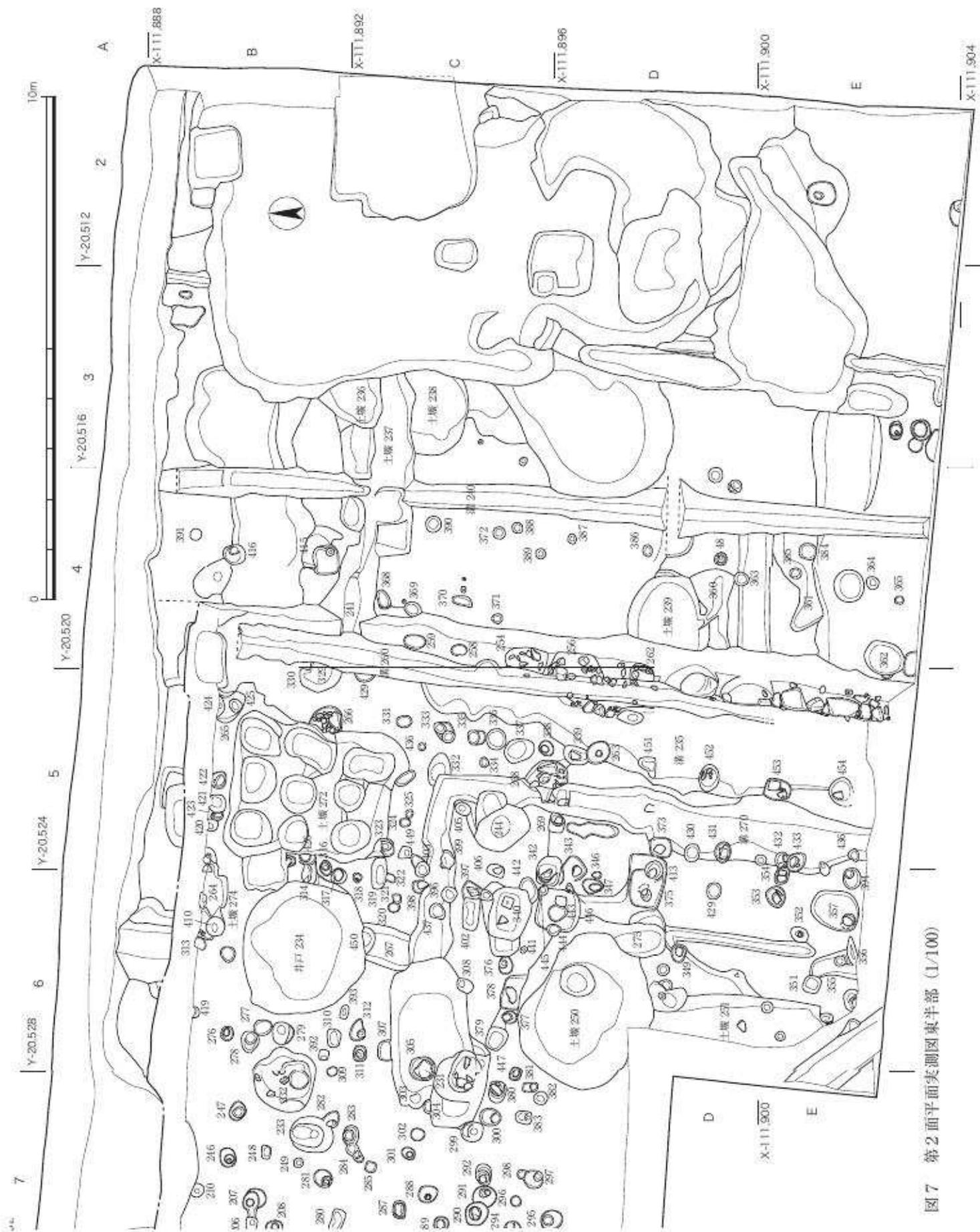


图7 第2平面实测图东半部 (1/100)

南壁 1

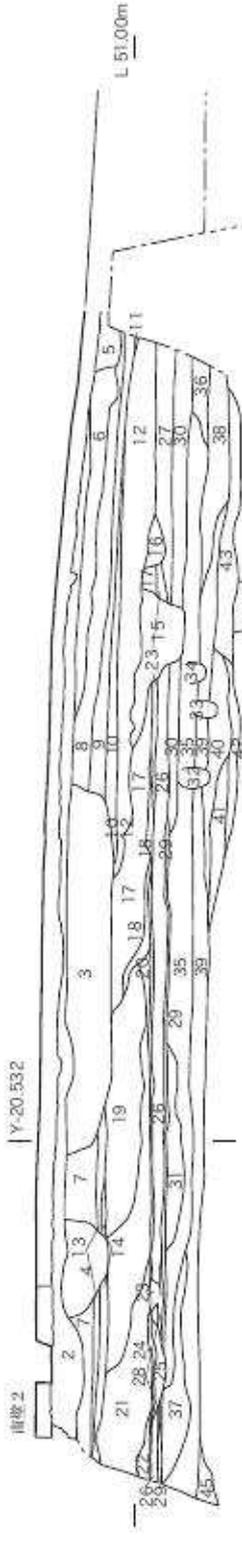


- 1 アスファルト
- 2 10YR3/2黒褐色泥砂、砕石、φ10cm位の礫多量に混(フリ石)
- 3 10YR6/6明黄褐色泥砂、10YR4/2灰黄褐色泥砂塊
- 4 10YR7/8黄褐色泥砂
- 5 10YR6/2灰黄褐色泥砂
- 6 10YR6/6明黄褐色泥砂、10YR4/6褐色泥砂混、下層 10YR7/6明黄褐色泥砂、P=14
- 7 10YR4/1褐色泥砂、P=16
- 8 7.5YR4/3褐色泥砂、P=17
- 9 10YR5/4にふい黄褐色、P=21
- 10 7.5YR4/2灰褐色泥砂、塊 240
- 11 10YR7/2にふい黄褐色-同6.3にふい黄褐色泥砂、P=31
- 12 10YR4/4褐色泥砂、φ3cm未満の礫多量に入る、固く締まる
- 13 10YR4/6褐色泥砂

- 14 10YR3/3暗褐色泥砂
- 15 10YR3/4暗褐色泥砂
- 16 7.5YR2/2黒褐色泥砂、10YR5/6黄褐色泥砂、炭、瓦混
- 17 10YR4/4褐色泥砂、炭混
- 18 10YR4/2灰黄褐色泥砂、瓦混
- 19 2.5Y4/4ナリ-7褐色泥砂、10YR2/3黒褐色泥砂、10YR6/8明黄褐色泥砂混
- 20 10YR3/4暗褐色泥砂、土砂器片混
- 21 2.5Y5/6黄褐色泥砂
- 22 2.5Y3/3暗ナリ-7褐色泥砂、炭混
- 23 10YR4/4褐色泥砂、炭混
- 24 10YR3/4暗褐色泥砂、土砂器片・炭混
- 25 10YR4/4褐色泥砂、10YR6/8明黄褐色泥砂混
- 26 10YR3/3暗褐色泥砂

- 27 10YR4/4褐色泥砂、瓦混、φ3-12cm礫混
- 28 10YR4/2灰黄褐色泥砂、φ6-18cm混、(右側崩形)
- 29 10YR4/4褐色泥砂
- 30 10YR5/8黄褐色泥砂、10YR4/4褐色泥砂混
- 31 10YR6/8明黄褐色泥砂
- 32 10YR3/4暗褐色泥砂、炭、土砂器片少量混
- 33 10YR4/4褐色泥砂
- 34 2.5Y6/8明黄褐色泥砂
- 35 2.5Y6/4にふい黄褐色泥砂、2.5Y4/4ナリ-7褐色泥砂混

南壁 2



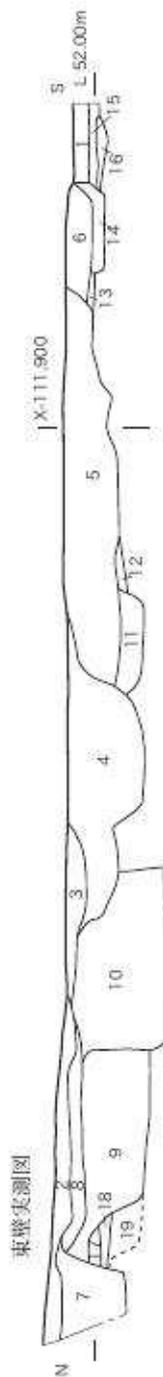
- 1 アスファルト
- 2 10YR3/2黒褐色泥砂、砕石、φ10cm位の礫多量に混
- 3 10YR3/2黒褐色泥砂、下層にφ10cm位の礫入る、木片混
- 4 10YR4/3にふい黄褐色泥砂、土管入る
- 5 10YR4/1褐色泥砂
- 6 10YR2/1黒色泥砂
- 7 10YR6/2灰黄褐色泥砂
- 8 5Y5/1灰色泥砂
- 9 5Y6/1灰色泥砂、φ1cm未満の礫少量混
- 10 7.5YR5/4にふい褐色泥砂
- 11 10YR5/4にふい黄褐色泥砂
- 12 7.5YR3/3暗褐色泥砂
- 13 10YR4/6褐色泥砂
- 14 10YR3/3暗褐色泥砂
- 15 10YR3/3暗褐色泥砂、φ7cmの礫少量、炭、土砂器片混
- 16 10YR3/3暗褐色泥砂

- 17 7.5YR4/4褐色泥砂、φ3cm未満の礫少量、瓦、土砂器片混
- 18 7.5YR3/2黒褐色泥砂
- 19 7.5YR4/3褐色泥砂、φ2-10cmの礫少量、瓦混
- 20 10YR3/4暗褐色泥砂、10YR5/6黄褐色泥砂混
- 21 7.5YR3/2黒褐色泥砂、10YR5/6黄褐色泥砂、炭・瓦混
- 22 10YR4/4褐色泥砂
- 23 7.5YR7/1黒色泥砂、土砂器片混
- 24 10YR2/2黒褐色泥砂
- 25 10YR3/4暗褐色泥砂
- 26 10YR3/3暗褐色泥砂
- 27 10YR3/3暗褐色泥砂、10YR5/4にふい黄褐色泥砂混
- 28 10YR6/6明黄褐色泥砂
- 29 10YR3/4暗褐色泥砂
- 30 10YR3/4暗褐色泥砂、炭、土砂器片混
- 31 10YR3/1黒褐色泥砂
- 32 10YR3/2黒褐色泥砂、炭、土砂器片混

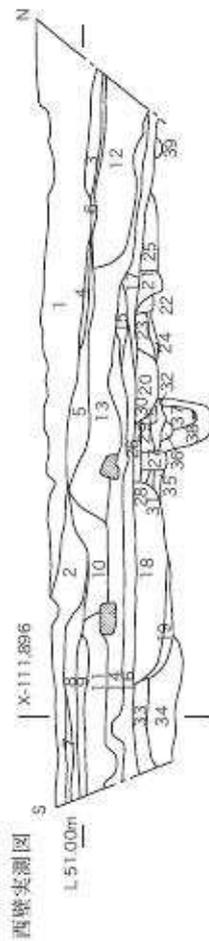
- 33 10YR2/3黒褐色泥砂、炭、土砂器片混
- 34 10YR3/3暗褐色泥砂、炭混
- 35 7.5YR3/2黒褐色泥砂
- 36 10YR3/2黒褐色泥砂、炭、土砂器片混
- 37 10YR3/3暗褐色泥砂や小粒管、炭、土砂器片混
- 38 10YR4/2灰黄褐色泥砂、瓦、土砂器片混
- 39 10YR3/3暗褐色泥砂、瓦、土砂器片混
- 40 10YR4/3にふい黄褐色泥砂、10YR6/6明黄褐色泥砂混、土層162
- 41 10YR4/2灰黄褐色泥砂、炭混、土層162
- 42 10YR4/2灰黄褐色泥砂、炭、瓦、土砂器片混、土層162
- 43 2.5Y6/2暗灰黄色泥砂、炭混
- 44 10YR4/1褐色泥砂、炭混、土層78
- 45 10YR3/1黒褐色泥砂、土層20



図8 南壁実測図 (1/100)



- 1 アスファルト
 2 10YR4/1 緑灰色泥砂、φ1~15cmの礫多量入る、コンクリート混
 3 10YR4/1 緑灰色泥砂、φ2~10cmの礫多量入る
 4 10YR2/2 黒褐色泥砂、φ3~10cmの礫少量入る
 5 10YR3/1 黒褐色泥砂、φ3cm未満の礫多く混、灰混
 6 10YR6/1 緑灰色泥砂
 7 10YR5/2 灰黄褐色泥砂、ガラス片、コンクリート片混
 8 10YR2/3 黒褐色泥砂、炭、土師器片、瓦片混
 9 10YR3/3 暗褐色泥砂、瓦片混
 10 10YR5/1 緑灰色泥砂、10YR6/6 明黄褐色泥砂、コンクリート混
- 11 10YR5/6 黄褐色泥砂、10YR4/2 灰黄褐色泥砂混
 12 10YR4/4 褐色泥砂
 13 10YR2/1 黒褐色泥砂
 14 10YR2/2 黒褐色泥砂
 15 10YR6/4 におい黄褐色泥砂、タリ石・砕石
 16 10YR4/1 緑灰色泥砂、10YR5/4 におい黄褐色泥砂混
 17 10YR5/4 におい黄褐色泥砂、φ3cm 大の礫混合
 18 7.5YR3/4 暗褐色泥砂、炭混
 19 10YR3/4 暗褐色泥砂
 20 10YR6/6 明黄褐色泥砂



- 1 2.5Y4.4 オリーブ褐色泥砂、2.5Y6/6 明黄褐色シルト (アロク)、
 10YR3/4 暗褐色泥砂、φ1~15cm 内の礫多く混じる
 2 10YR4/1 緑灰色泥砂
 3 10YR6/6 明黄褐色泥砂、2.5Y6/8 明黄褐色泥砂、φ1~5cmの礫混
 4 10YR5/6 黄褐色泥砂、φ1~5cmの礫混
 5 10YR4/1 緑灰色泥砂、5Y5/3 灰オリーブ色泥砂一部混、φ1~7cm
 礫混
 6 10YR7/1 黒色泥砂、アスファルト、コンクリート片混
 7 5Y5/1 灰色泥砂
 8 5Y6/1 灰色泥砂
 9 10YR5/4 におい黄褐色泥砂、φ1cmの礫少量混
 10 10YR4/4 褐色泥砂、10YR6/6 明黄褐色泥砂、炭混、φ1~15cm 礫
 多く混
 11 7.5YR3/3 暗褐色泥砂
 12 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色泥砂、砂混、コンクリート混
- 13 10YR4/3 におい黄褐色泥砂、10YR6/8 明黄褐色泥砂アロク混、
 φ1~15cm 礫多く混、炭、土師器片混
 14 10YR3/3 暗褐色泥砂、10YR5/4 におい黄褐色泥砂混
 15 10YR4/4 褐色泥砂、φ1~15cm 礫、炭、土師器片混
 16 10YR3/4 暗褐色泥砂、炭、土師器片混
 17 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色泥砂、φ1~3cmの礫、炭、土師器片混
 18 10YR3/3 暗褐色泥砂、5YR5/8 明赤褐色焼土アロク混、φ1~5cm
 の礫少量、瓦、土師器片、瓦片混
 19 10YR3/4 暗褐色泥砂、φ1cmの礫少量、炭、焼土混
 20 10YR3/2 黒褐色泥砂、φ1~3cmの礫少量、炭、土師器片混
 21 10YR3/3 暗褐色泥砂、φ1~3cmの礫少量、炭、土師器片混
 22 10YR3/2 黒褐色泥砂、φ1~7cmの礫少量、炭、土師器片混
 23 10YR5/6 黄褐色泥砂、φ1~3cmの礫少量混
 24 10YR4/3 におい黄褐色泥砂、φ1~2cmの礫少量混、炭、焼土混
 25 10YR3/2 黒褐色泥砂、φ1~2cmの礫少量、炭、土師器片混
- 26 10YR4/2 灰黄褐色泥砂、φ1~3cmの礫少量混、炭、焼土混
 27 10YR3/3 暗褐色泥砂、φ1~7cmの礫少量、炭、焼土混
 28 10YR5/8 黄褐色泥砂
 29 10YR5/8 黄褐色泥砂、φ1~4cmの礫少量混、炭、焼土混
 30 10YR5/6 黄褐色泥砂、炭、焼土混
 31 10YR3/3 暗褐色泥砂、φ1~2cmの礫少量、炭、焼土混
 32 10YR3/3 暗褐色泥砂、φ1~2cmの礫少量、炭、焼土混
 33 10YR3/2 黒褐色泥砂、炭、土師器片混
 34 10YR4/2 灰黄褐色泥砂、炭、土師器片混
 35 10YR5/8 黄褐色泥砂
 36 10YR3/3 暗褐色泥砂、φ1~5cmの礫少量、炭、焼土混
 37 10YR4/6 褐色泥砂、φ1~3cmの礫少量混、炭、焼土混
 38 10YR5/6 黄褐色泥砂、φ1cmの礫少量混
 39 10YR4/6 褐色泥砂、10YR4/3 におい黄褐色、炭、土師器片混

図9 東壁・西壁実測図 (1/100)

他に鎌倉時代～室町時代前期と思われる遺構には、柱穴 90・104・110・121・123・144・181・182・206・207・208・212・216・222・223・278・352・372・426・439・440・447、土塋 85・160・251・274・361 がある。

室町時代前期～中期（14～15世紀）

井戸 82（図版 2 の 2・3 の 1・6 の 8、図 6）

9-C 区で検出。南北 1.30m、東西約 1.25m を測り、深さは検出面から 4.6m まで掘り下げ、底部の中央に桶の設置痕が認められたが底部を確認するには至らなかった。安全上の問題で掘削を中止した。10YR4/3 にぶい黄褐色泥砂、10YR3/2 黒褐色粘質土、2.5Y3/1 黒褐色粘質土、2.5GY5/1 オリーブ灰色粘土などが堆積していた。京都Ⅳ期中くらいの土器が出土している。

他に室町時代前期～中期と思われる遺構には、柱穴 89・95・99・103・105・107・113・114・116・117・122・127・137・156・172・175・177・198・199・201・211・215・226・228・246・279・285・290・291・294・297・381・383・392・420、土塋 166・183・310・380・425 がある。

室町時代後期（15～16世紀）

井戸 234（図版 2 の 2・3 の 1・6 の 7、図 7）

6-B～C 区で検出。掘形は東西 2.62m、南北 2.35m のほぼ円形で、検出面より 5.0m 掘り下げたところで底部を確認した。10YR5/4 にぶい黄褐色砂泥、10YR4/2 灰黄褐色砂泥、10YR5/6 黄褐色砂礫等の堆積土が認められた。

土塋 272（図版 2 の 2・3 の 1・6 の 6、図 7）

5-B～C 区で検出。掘形はほぼ方形で、東西 2.9m、南北 3.63m を測り、深さは 0.4m 程である。底部に径 0.65m 前後、深さ 0.08m 程の凹みが東西方向に 3 個、南北方向にも 3 個の凹みが見られた。甕を据えた跡と思われる。10YR5/4 にぶい黄褐色砂泥、10YR3/4 暗褐色砂泥等が堆積する。

柱穴 357（図版 2 の 2・3 の 1・7 の 3 と 4、図 7・10）

6-E 区で検出。南北 0.96m、東西 0.79m の楕円形の掘形で、南寄りに径 0.25m の柱当たりが確認できた。検出面から 0.68m の深さで根石が設置されていた。

柱穴 375（図版 2 の 2・3 の 1・7 の 5 と 6、図 7・11）

5～6-D 区で検出。南北 0.69m、東西 0.75m の隅丸の長方形の掘形で、西寄りに径 0.25m の柱当たりが確認できた。検出面から 0.70m の深さで根石が設置されていた。

柱穴 340（図版 2 の 2・3 の 1・7 の 7、図 7・12）

6-C 区で検出。南北 0.80m、東西 1.05m の隅丸の長方形の掘形で、検出面から 0.68m ほどの深さで東西に 0.15m 離れた位置で根石が 2 基設置されていた。東側の根石は五輪塔の火輪部分を底面を上にして設置している。

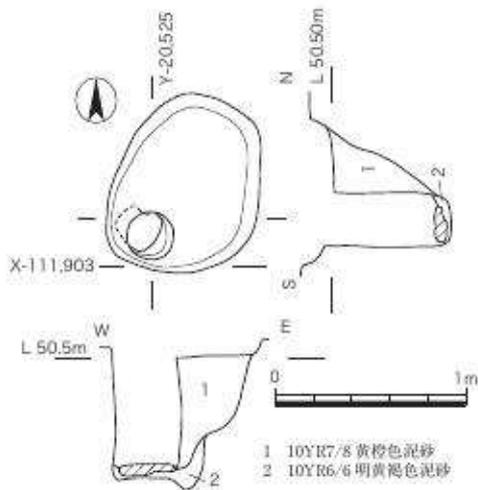


図10 柱穴357実測図 (1/40)

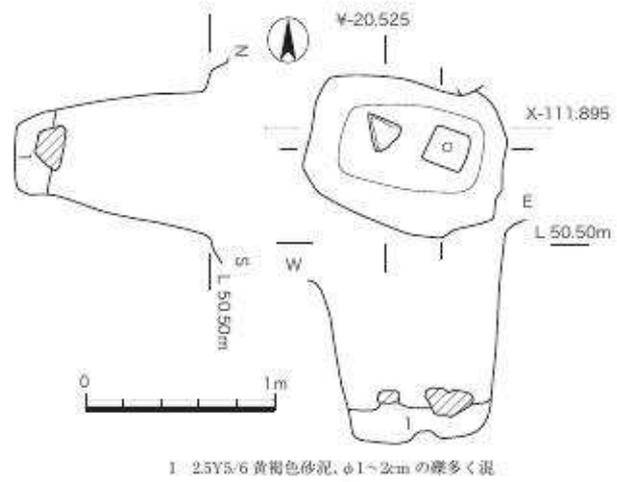


図12 柱穴340実測図 (1/40)

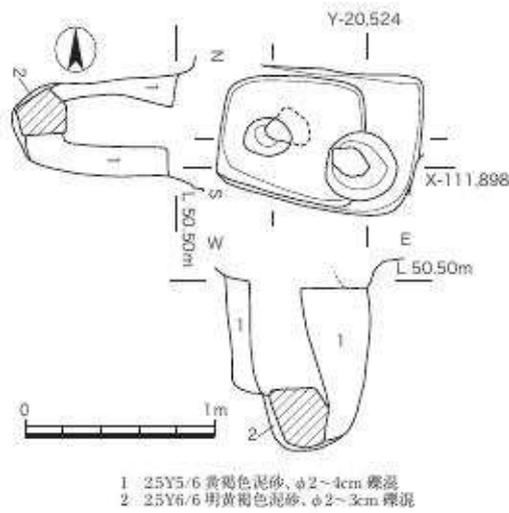


図11 柱穴375実測図 (1/40)

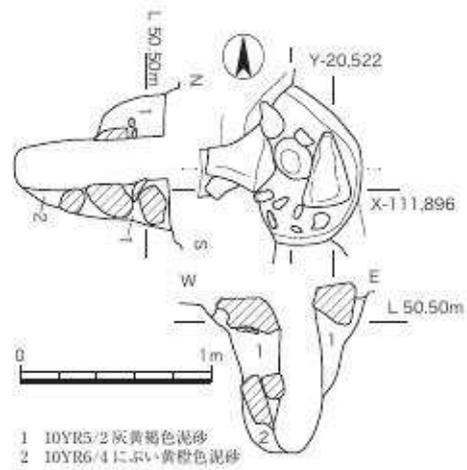


図13 柱穴268実測図 (1/40)

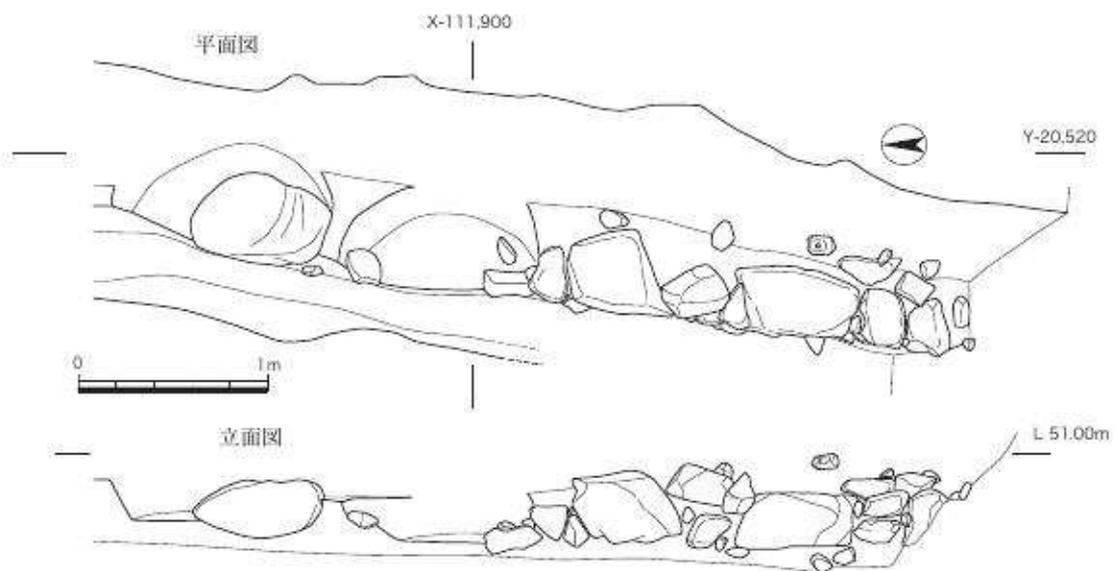


図14 溝260石組実測図 (1/40)

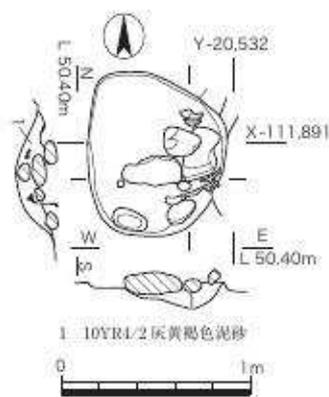


図15 土壙190実測図(1/40)

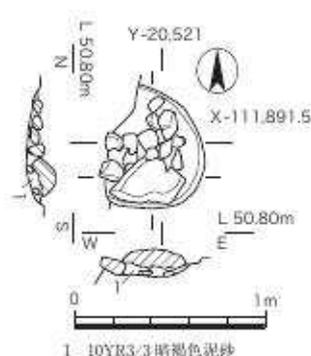


図16 土壙266実測図(1/40)

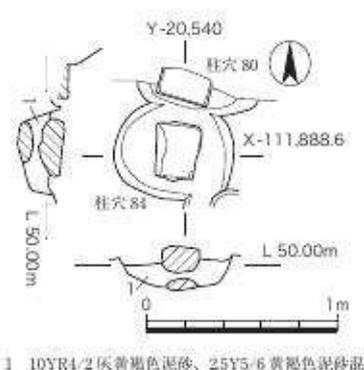


図17 柱穴80・84実測図(1/40)

柱穴268 (図版2の2・3の1・7の8、図7・13)

5-C～D区で検出。南北0.84m、東西0.85mのほぼ円形の掘形でほぼ中央部に径0.22m程の柱当りがある。検出面から0.85mほどで底部となる。掘形には大礫が入れられており根固めをしている状況が確認できた。この礫の中には五輪塔の火輪部分を割ったものが含まれていた。

溝260 (図版2の2・3の1と2・6の3～5、図7・14)

Y-20,520m付近の段の底部に沿って作られており境界を意識していることは明らかである。最大幅0.7m、最深部で0.20mを測る。調査区南部では西面する石組を作るがこれに対面する石組は無い。

土壙190 (図版2の2・3の1・9の8、図6・15)

8-B区で検出。南北0.84m、東西0.73mのほぼ円形の掘形で、深さは0.10mを測る。瓦器の火鉢片が出土している。16世紀半ばから後半くらいの遺構である。

他に室町時代後期遺構としては、柱穴100・101・129・132・135・140・150・163・165・193・194・221・263・269・283・292・295・300・305・312・323・335・342・353・354・363・364・369・373・390・391・393・394・395・410・413・432・433・443・446・449・453、土壙118・200・232・233・237・239・241・244・264・265・272・275・319・329・402・429、溝235・240・260・270がある。

これらの他土壙266(図16)、柱穴80・84(図17)など中世と推定される石を利用した遺構も多く見られた。

江戸時代前期(17世紀)

土壙23 (図版2の1・5の6と7、図5・18)

第1面の5～6-D区で検出。南北0.85m、東西1.28m、深さ0.28mを測る。深さ0.14mのところ0.5×0.4m程の石が据えられている。柱穴とも考えられるがこれと対をなす遺構は見つかっておらず性格は不明である。

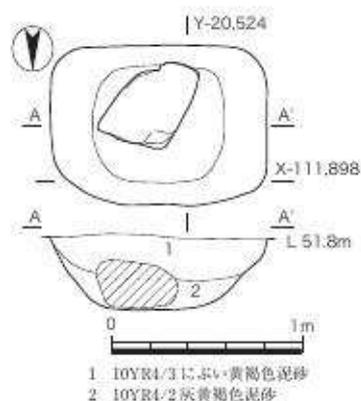


図18 土壙23実測図(1/40)

江戸時代中期（17世紀末～18世紀中頃）

土壌 46（図版2の1・5の2、図5）

4-D区で検出。攪乱に切られており東西0.90m以上、南北0.92m以上、深さ0.1mを測る。10YR4/6褐色泥砂が堆積していた。土師器皿、塩壺などが出土している。

江戸時代中期の遺構には他に土壌60がある。

江戸時代後期（18世紀後半～19世紀中頃）

溝 15（図版2の1・5～2、図5・19）

調査区中央部やや東側で検出。平面が方形になると思われるが東辺と北辺は攪乱のためか未確認である。南西のコーナー部から東辺は9.8m、西辺は9.5mの残存が確認される。建物の雨落ち溝である可能性もある。幅は0.65～1.14m、深さは0.11～0.32mを測る。方位は現在の直角座標系に近く、中世以前の地割り方位の影響は受けていない。

土壌 28（図版2の1・5の1、図5・20）

7-C区で検出。南半は切られて無いが東西0.55m、南北0.38m以上で深さは0.22mを測る。土師器皿が4枚ほど埋納されていた。

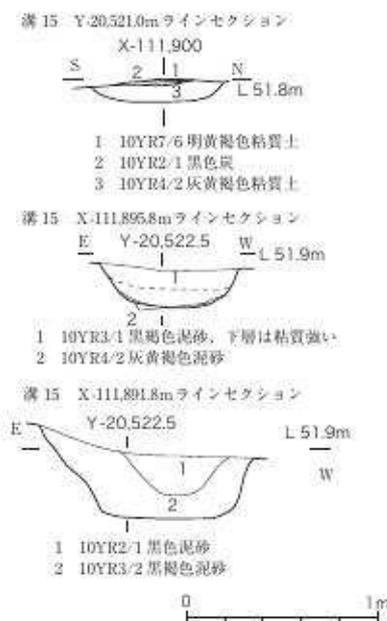


図 19 溝 15 断面実測図 (1/40)

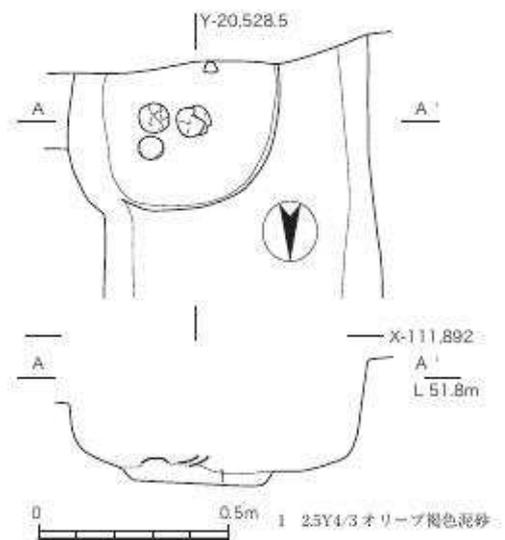


図 20 土壌 28 実測図 (1/20)

IV 遺物

出土遺物は整理箱にして70箱ある。なお、時代区分は平安京の土器編年^{第7}をもとにおこなう。

土器・陶磁器類

柱穴 416 (図版 12、図 21)

土師器壺(1)で二重口縁で外面に段が巡る。古墳時代の土器であるが中世の遺構に混入して出土。

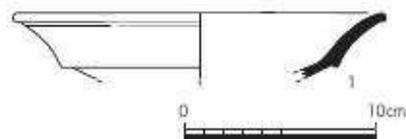


図 21 柱穴 416 出土土器実測図 (1/4)

柱穴 153 出土土器 (図版 12、図 22)

土師器皿N大(2・3)が出土。平安京V期新～VI期古に比定できるものと見ている。

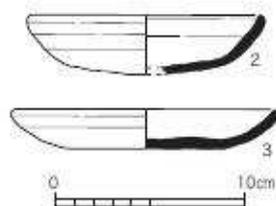


図 22 柱穴 153 出土土器実測図 (1/4)

土壙 250 出土土器 (図版 12、図 23)

土師器皿Ac(4)、同皿N小(5～7)、同皿N大(8・9)、瓦器鍋(10)、輸入磁器青磁碗(11)が出土している。中国同安窯産と見られる。

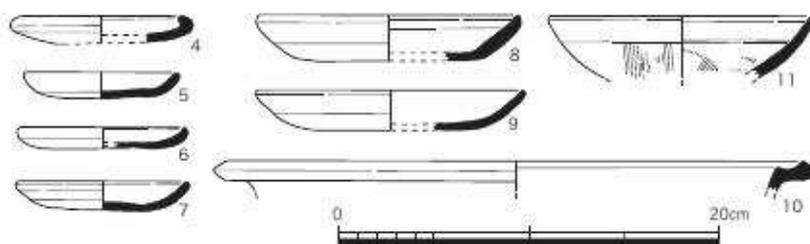


図 23 土壙 250 出土土器実測図 (1/4)



図 24 土壙 162 出土土器実測図 (1/4)

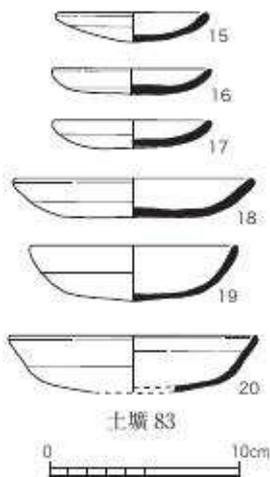


図 25 土壙 83 出土土器実測図 (1/4)

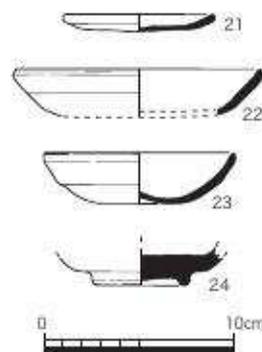


図 26 土壙 78 出土土器実測図 (1/4)

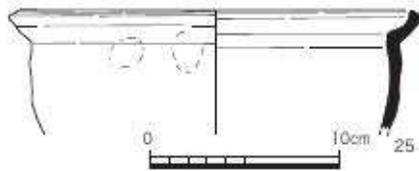


図27 土壙361出土
土器実測図(1/4)

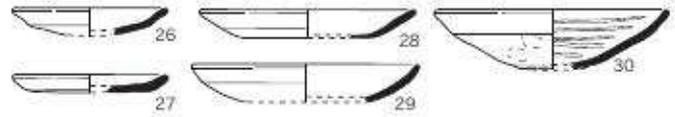


図28 土壙274出土土器実測図(1/4)

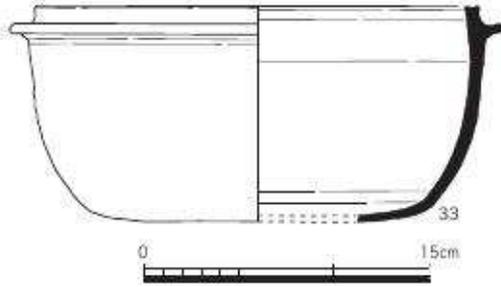


図29 柱穴107出土土器実測図(1/4)

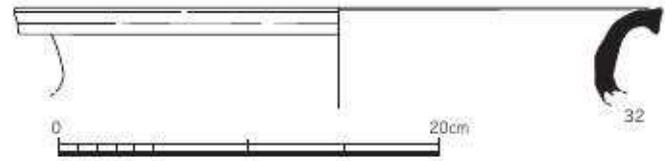


図30 柱穴177出土
土器実測図(1/4)

土壙162出土土器 (図版12、図24)

土師器皿N小(12)、同皿N大(13)、輸入磁器白磁壺(14)が出土。

土壙83出土土器 (図版12、図25)

土師器皿N小(15～17)、同皿N大(18)、土師器皿S(19・20)が出土。

土壙78出土土器 (図版12、図26)

土師器皿N小(21)、同皿N大(22)、土師器皿S(23)、輸入磁器青磁椀(24)が出土。輸入磁器は中国竜泉窯産。

土壙361出土土器 (図27)

瓦器羽釜(25)が出土。

土壙274出土土器 (図版13、図28)

土師器皿N小(26・27)、同皿N大(28・29)、瓦器椀(30)、瓦器羽釜(31)、須恵器甕(32)が出土。須恵器甕は播磨産。

柱穴107出土土器 (図版13、図29)

瓦器羽釜(33)が出土。

柱穴177出土土器 (図版13、図30)

輸入磁器白磁口元皿(34)、輸入磁器青磁皿(35)が出土。2点とも中国産。

井戸82出土土器 (図版13、図31)

土師器皿N大(36)、同皿S(37)、瀬戸灰釉卸目皿(38)、瀬戸灰釉皿(39)、常滑産焼締陶器甕(40・41)、備前産焼締陶器甕(42)が出土。38の底部は糸切り。39は見込み部分にスタンプで陰刻の文様を施す。底部外面は丁寧に平滑に削る。京都Ⅶ期新くらいと見られる。

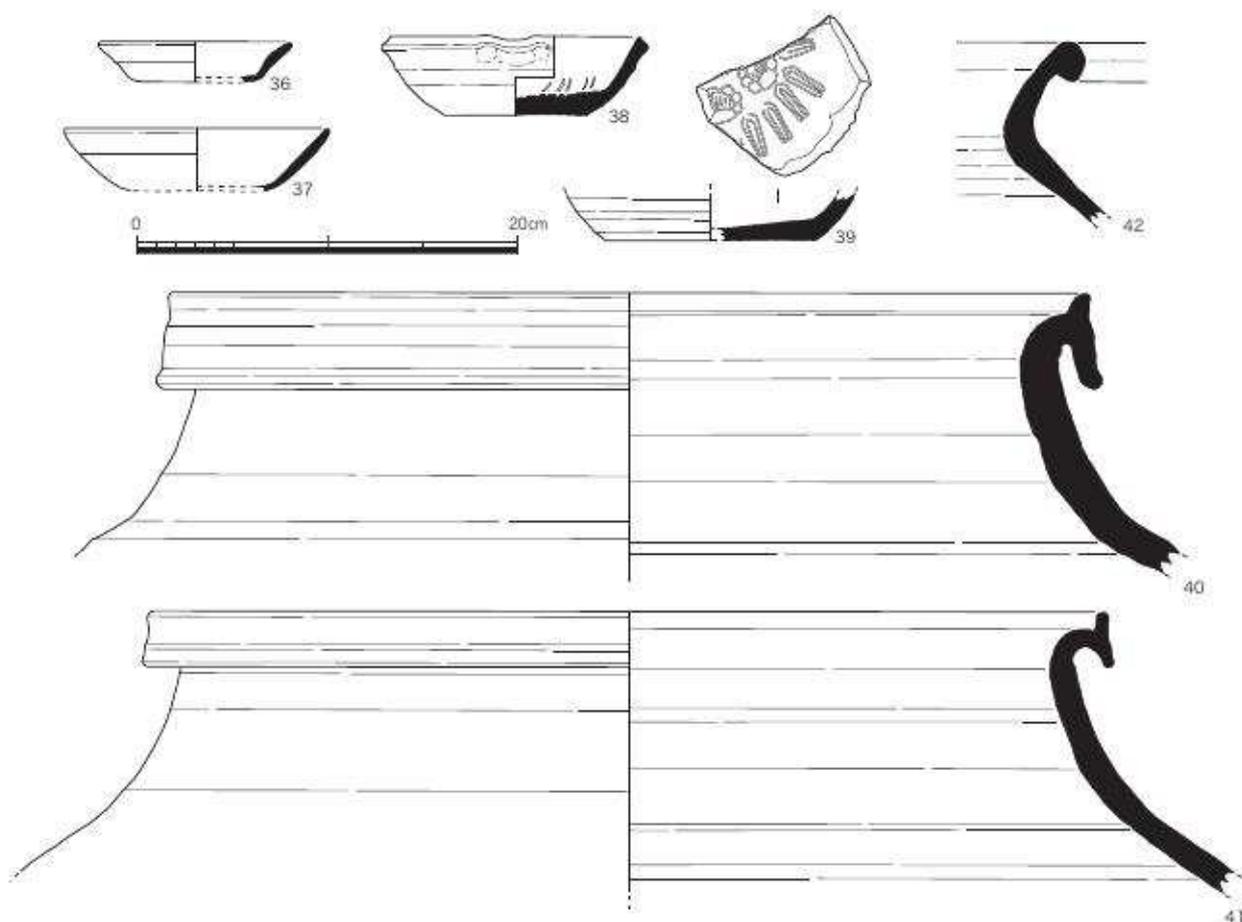


图31 井戸82出土土器实测图(1/4)

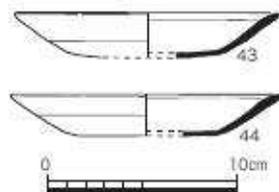


图32 土壙118出土土器实测图(1/4)

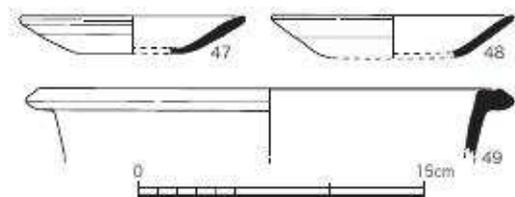


图35 井戸234出土土器实测图(1/4)

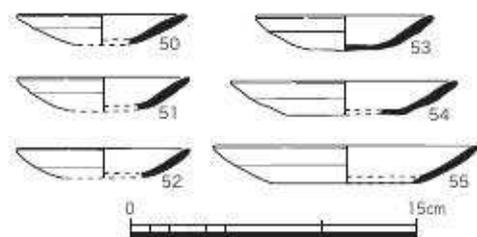


图36 土壙272出土土器实测图(1/4)

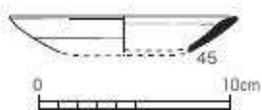


图33 溝240出土土器实测图(1/4)



图34 土壙340出土土器实测图(1/4)

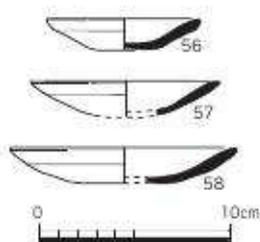


图37 溝260出土土器实测图(1/4)

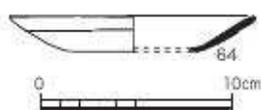


图39 土壙244出土土器实测图(1/4)

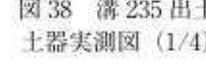
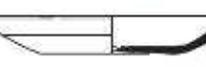
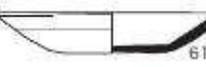
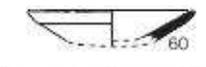
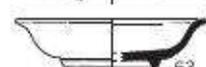


图38 溝235出土土器实测图(1/4)

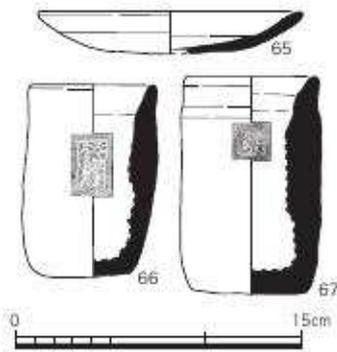


図40 土壙46出土土器
実測図(1/4)

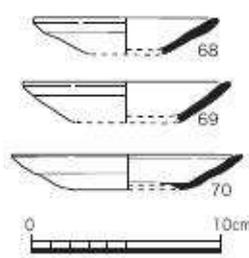


図41 土壙36出土
土器実測図(1/4)

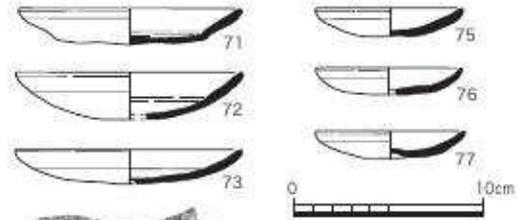


図43 土壙28出土
土器実測図(1/4)

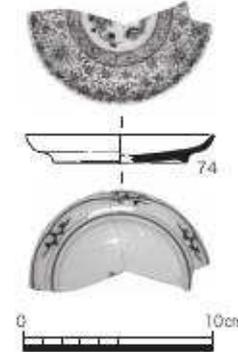


図42 溝15出土
土器実測図(1/4)

土壙118出土土器 (図32)

土師器皿S(43・44)が出土。

溝240出土土器 (図33)

土師器皿S(45)が出土。

土壙340出土土器 (図34)

土師器皿S(46)が出土。

井戸234出土土器 (図版13、図35)

土師器皿S(47・48)、瓦器鍋(49)が出土。

土壙272出土土器 (図36)

土師器皿Sb(50～52)、土師器皿S(53～55)が出土。

溝260出土土器 (図37)

土師器皿Sb(56)、土師器皿S(57・58)が出土。

溝235出土土器 (図版14、図38)

土師器皿Sb(59・60)、土師器皿S(61・62)、輸入染付磁器皿(63)が出土。63は中国産。

土壙244出土土器 (図39)

土師器皿S(64)が出土。

土壙46出土土器 (図版14、図40)

土師器皿S(65)、土師器塩壺身(66・67)が出土。66は「天下一堺ミなど / 藤左衛門」銘、67は「ミなど藤左エ門」銘のスタンプあり。

土壙36出土土器 (図41)

土師器皿S(68～70)が出土。

溝 15 出土土器 (図版 14、図 42)

土師器皿 S (71 ~ 73)、国産染付磁器皿 (74) が出土。

土壙 28 出土土器 (図 43)

土師器皿 Sb (75 ~ 77) が出土。

瓦類 (図版 15・16、図 44・45)

蓮華文巴文軒丸瓦 (78)

中央部分に三巴文、その周辺に連珠を施しさらに外側に蓮華文を配す。土壙 250 より出土。

蓮華文巴文軒丸瓦 (79・80)

79 は筒部外面をあらく削る。筒部内面は糸切り痕が残る。土壙 250 出土。80 は文様の外周に連珠を施す。井戸 82 出土。

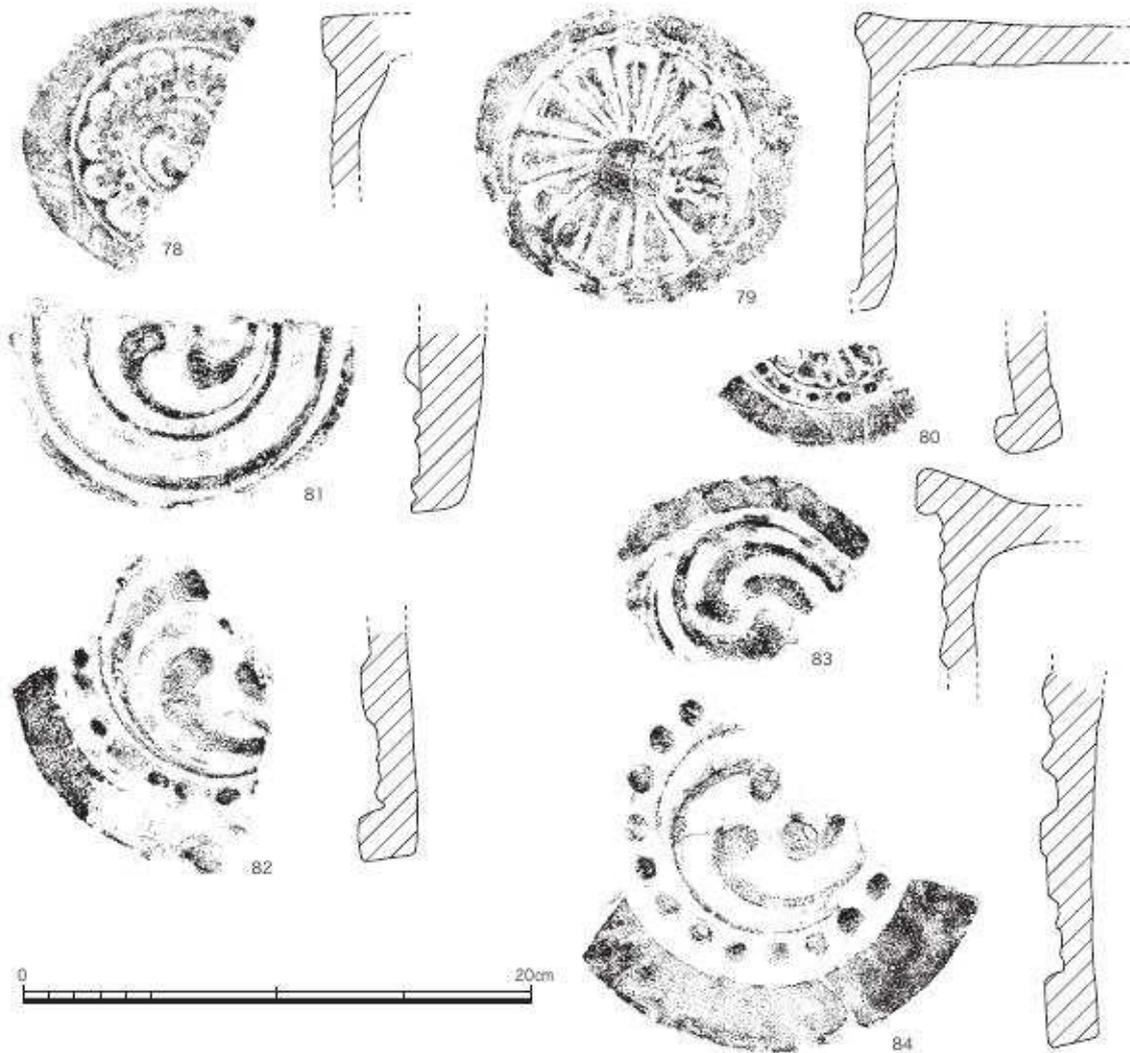


図 44 出土瓦拓影・実測図 (1/3)

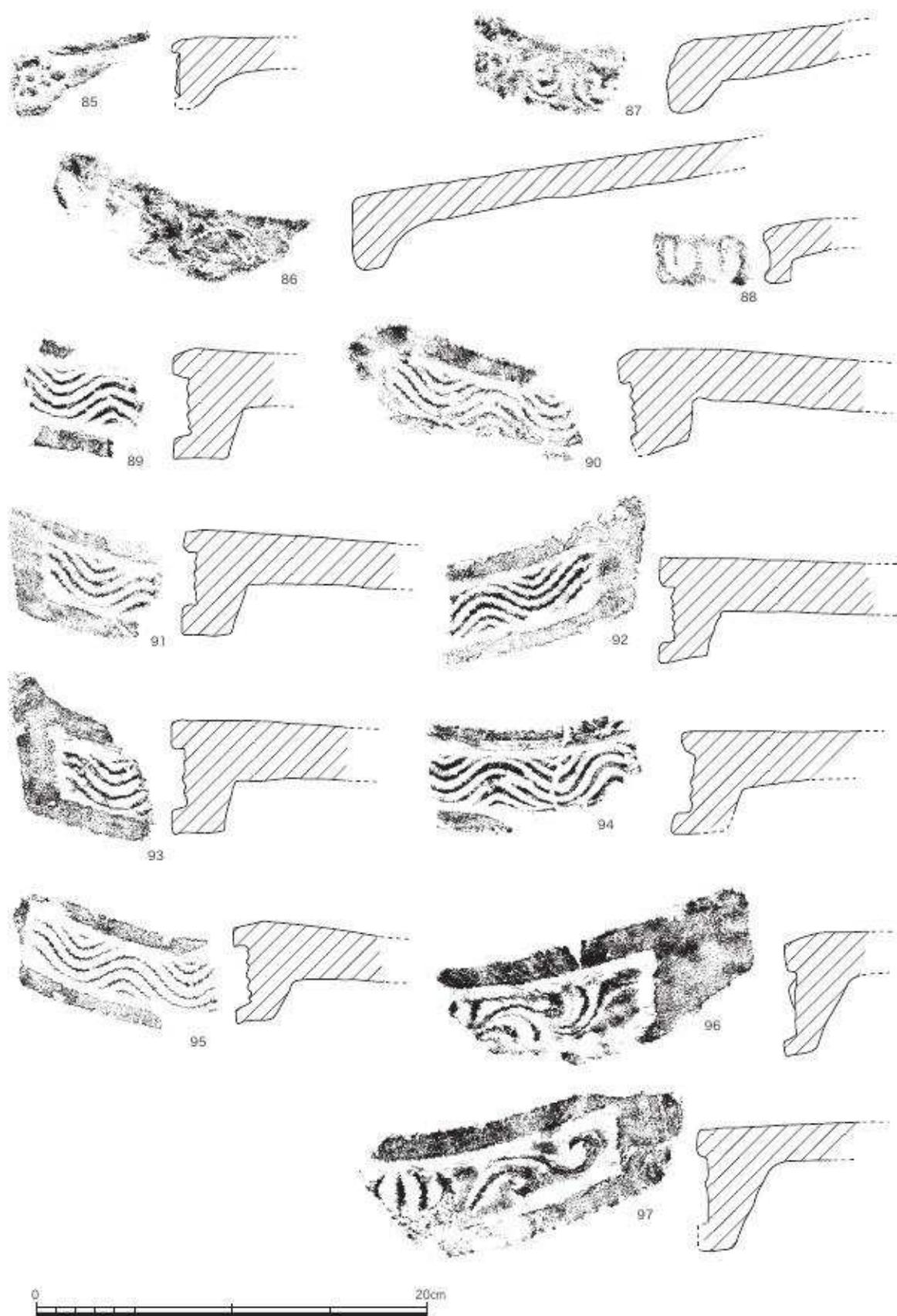


图 45 出土瓦拓影·实测图 (1/3)

巴文軒丸瓦 (81～84)

81 は土壙 250、82・83 は溝 240、84 は土壙 28 出土。

花菱文軒平瓦 (85)

85 は土壙 250 出土。

唐草文軒平瓦 (86)

土壙 251 出土。瓦当文様は線刻である。

巴文軒平瓦 (87)

土壙 250 出土。凸面には縄目、凹面には布目痕が残る。

剣頭文軒平瓦 (88)

溝 240 出土。

波文軒平瓦 (89～95)

89 は溝 240、90 は土壙 340、91～93 は溝 260、94 は溝 235、95 は柱穴 443 より出土。92・94 は軒瓦である。炭素が吸着していないものが多い。

唐草文軒平瓦 (96・97)

両者とも土壙 28 出土。

有孔甗 (図版 17、図 46)

98～102 は井戸 82 より出土。長さ 32cm、幅 11.5cm、厚さ 5.5cm 前後を図る。器表には縄目が残りに、周縁部は厚く中側は薄く仕上げる。穴は 2 個あけられている。

石造物 (図版 17、図 47)

五輪塔・火輪部分 (103・104)

103 は柱穴 268 堀形より出土。欠損部もあるが、復元すると一辺 38cm ほどとなる。厚さは 25cm 前後で、側面に梵字で「𑖀 (ラク)」と刻まれている。五輪塔では涅槃門、すなわちこの面が北を向くように設置される。上面には径 9cm 前後の円形のはぞ穴が開けられている。底面の中央部は欠損している。104 は柱穴 340 の根石に使われていたもので一辺 23cm ほどで厚さ 14cm を測る。上面と底面には径 5.5cm 程の円形のはぞ穴が設けられている。側面はなにも刻まれていない。材質はいずれも花崗岩である。

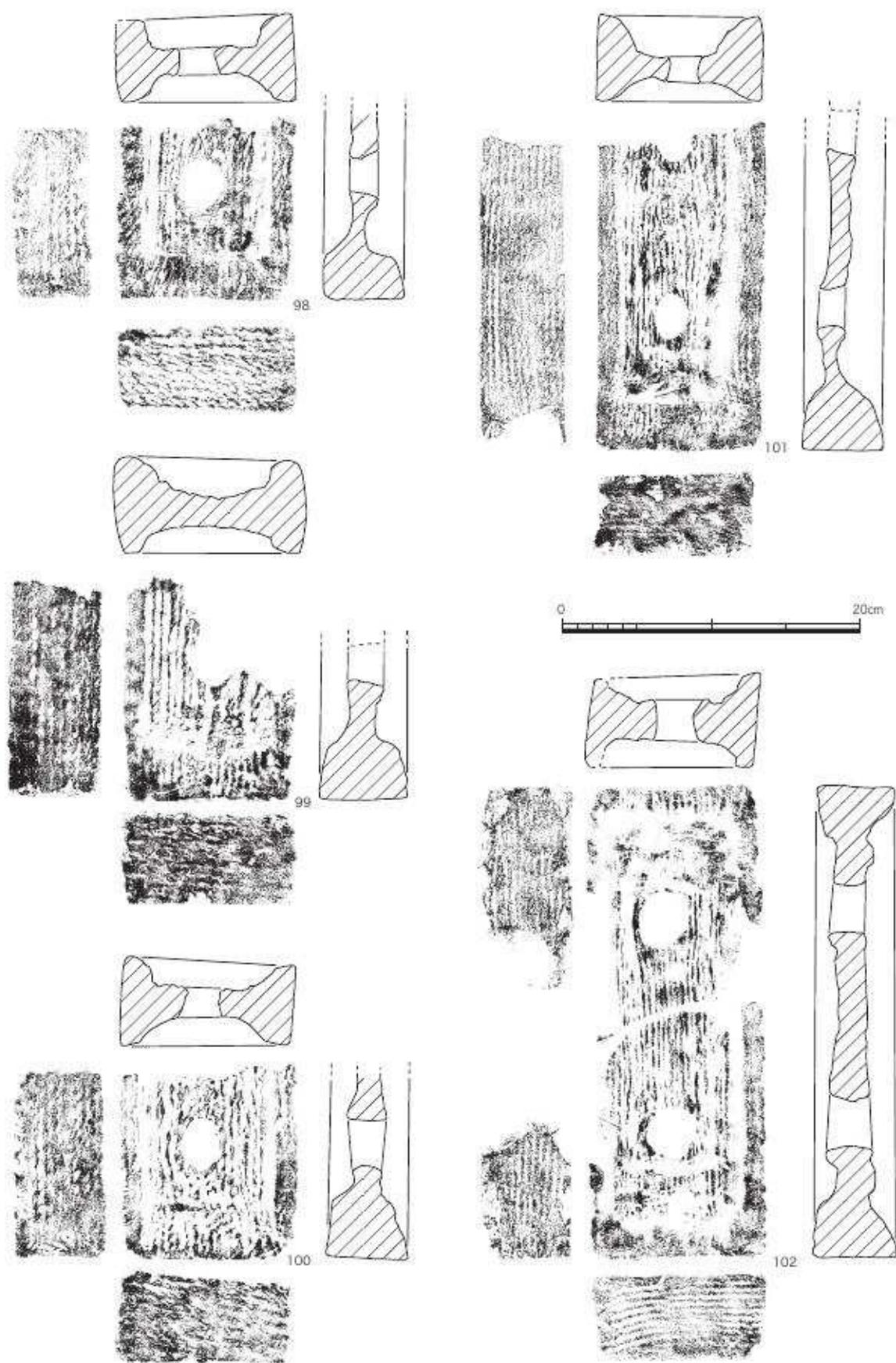


图 46 出土有孔甄拓影·实测图 (1/4)

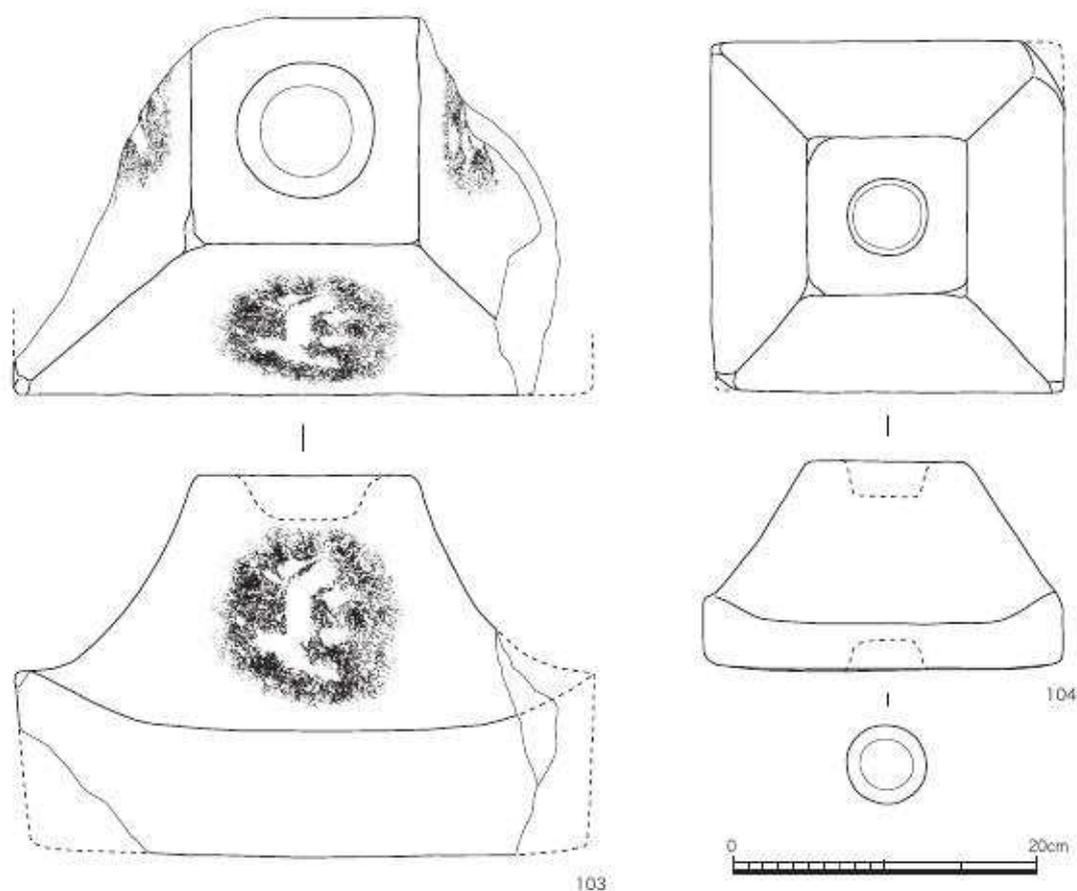


図47 出土石造物拓影・実測図 (1/5)

表1 遺物概要表

時代	内容	コンテナ数	Aランク点数	Bランク箱数	Cランク箱数
古墳時代	土師器		土師器1点		
平安時代	土師器、灰釉陶器、瓦		土師器2点、瓦9点(平安後期～鎌倉時代)		
鎌倉時代～室町時代	土師器、須恵器、瓦器、焼締陶器、国産陶器、輸入磁器、瓦、瓢、石造物		土師器43点、瓦器6点、須恵器1点、輸入磁器6点、国産陶器2点、焼締陶器3点、瓦7点、有孔瓢5点、五輪塔火輪2点		
桃山時代以降	土師器、国産磁器、焼締陶器、瓦器、瓦		土師器12点、国産磁器1点、瓦4点		
合計		76箱	104点(6箱：石造物2箱含む)	70箱	0箱

※ コンテナ箱数の合計は、整理後、Aランクの遺物を抽出したため、出土時より6箱多くなっている。

V 小 結

当該地では平安時代後期になって、法住寺北殿造営時に、段差が作られ敷地が確保されている。段差の方位はこの地域の条里制の方位に一致していた。そして確保された敷地にはおびただしい数の柱穴を中心とした遺構が認められた。この遺構群の一番古いものは平安時代後期から鎌倉時代初期のものであり、一番新しいものは室町時代後期の16世紀半ばくらいのものである。平安時代後期以降中世にかけて途切れることが無く人々が住んで活動していたという事実がわかった。

法住寺北殿の衰退後、仏光寺が移転してくる。正確な伽藍の位置は明らかになっていないが、この柱穴を中心とする遺構群は仏光寺に関連する施設であった可能性が高いと考えている。瓦類の出土や図示していないが敷輦などの出土も見られ、寺院の存在を感じる事が出来る。井戸234に隣接した甕設置遺構の土壙272はほぼ2㎓程の貯水が可能である。

豊臣秀吉による仏光寺移転、整地で段差を無くし妙法院の敷地となり、江戸時代以降は大きな動きは無くなるように見える。江戸時代後期の溝15は建物に伴う可能性があり、また同じく江戸時代後期の土壙28の土器埋納状況は地鎮の作法である可能性が高いが、それほど頻繁に土地利用を行った形跡はない。

今回の調査では法住寺殿北殿の北東域の様子や豊臣秀吉の大仏造営にかかる状況が明らかとなった。後白河法皇と豊臣秀吉と時代は違うが日本史上の2人の権力者のゆかりの地にその痕跡を見ることが出来たことは有意義であった。

註1 『年中行事絵巻』日本の絵巻8 中央公論社 1987年

註2 杉山信三『院の御所と御堂』院家建築の研究 奈良国立文化財研究所学報第十一冊 1962年

註3 江谷寛『平安京提要』古代学協会・古代学研究所 角川書店 1984年 図2の復元図はこれを参考にした。

註4 『史料京都の歴史10 東山区』京都市 平凡社 1987年

註5 『京都市の地名』日本歴史地名体系27 平凡社 1979年

註6 小森俊寛・上村憲章「京都の都市遺跡から出土する土器の編年」『研究紀要第3号』（財）京都市埋蔵文化財研究所1996年。土師器の型式名称もこれに従った。

註7 註6に同じ

参考図書

『法住寺殿跡』平安京跡研究調査報告第13輯（財）古代学協会 1984年

上村和直『法住寺殿の成立と展開』研究紀要第9号（財）京都市埋蔵文化財研究所 2004年

『京都国立博物館構内発掘調査報告書』—法住寺殿跡・六波羅政庁跡・方広寺跡— 京都市埋蔵文化財研究所報告第23冊（財）京都市埋蔵文化財研究所 2009年

表2 掲載土器一覧表

口径・器高の単位は cm

番号	種類	器形	口径	器高	色調、特徴	通称・器名	実測番号
1	土師器	壺	19.7	—	25Y7/4 浅黄色、φ 1 ~ 4mm の小礫含む	柱穴 416	77
2	土師器	皿 N	12.6	32	10YR7/4 におい黄棕色、φ 1mm 以下の小礫含む	柱穴 153	34
3	土師器	皿 N	14.2	21	10YR7/3 におい黄棕色、φ 1 ~ 3mm 以下の小礫含む	柱穴 153	35
4	土師器	皿 Ac	9.6	15	10YR7/2 におい黄棕色	土塚 250	51
5	土師器	皿 N	8.2	14	10YR6/2 灰黄褐色、φ 3mm 以下の小礫わずかに含む	土塚 250	52
6	土師器	皿 N	9.0	12	7.5YR6/4 におい褐色	土塚 250	53
7	土師器	皿 N	9.2	16	2.5Y7/2 灰黄色、φ 1.5mm 前後の小礫含む	土塚 250	54
8	土師器	皿 N	14.0	25	10YR6/3 におい黄棕色、φ 3mm 以下の小礫わずかに含む	土塚 250	55
9	土師器	皿 N	14.2	22	10YR7/2 におい黄棕色、φ 1mm 以下の小礫含む	土塚 250	56
10	瓦葺	罎	31.8	—	胎土は N5/ 灰色、外面には煤が付着する	土塚 250	57
11	輸入磁器	青磁碗	14.0	—	胎土は N8/ 灰白色、釉は 7.5Y6/2 灰オリブ色に発色、中国同安窯系	土塚 250	58
12	土師器	皿 N	8.9	16	10YR7/3 におい黄棕色、φ 1mm 以下の小礫含む	土塚 162	36
13	土師器	皿 N	13.7	19	10YR7/4 におい黄棕色、φ 1mm 以下の小礫含む	土塚 162	37
14	輸入磁器	白磁壺	17.2	—	胎土は 10Y7/1 灰白色、釉は 10Y8/1 灰白色に発色	土塚 162	38
15	土師器	皿 S	8.1	16	10YR6/3 におい黄棕色、φ 1.5mm 以下の小礫わずかに含む	土塚 83	26
16	土師器	皿 N	8.4	14	10YR7/4 におい黄棕色、φ 1mm 以下の小礫含む	土塚 83	27
17	土師器	皿 N	8.4	15	10YR7/4 におい黄棕色、φ 2mm 以下の小礫含む	土塚 83	28
18	土師器	皿 S	12.8	21	10YR8/2 灰白色、φ 1mm 以下の小礫少量含む	土塚 83	29
19	土師器	皿 S	11.0	30	10YR8/2 灰白色、φ 4mm 以下の小礫少量含む	土塚 83	30
20	土師器	皿 N	13.2	30	10YR7/4 におい黄棕色、φ 1.5mm 以下の小礫含む	土塚 83	25
21	土師器	皿 N	8.0	09	10YR7/4 におい黄棕色、砂粒含む	土塚 78	14
22	土師器	皿 N	13.2	25	5Y7/2 灰白色、砂粒含む	土塚 78	15
23	土師器	皿 S	10.0	27	5Y8/1 灰白色、砂粒含む	土塚 78	16
24	輸入磁器	青磁碗	—	—	胎土は 5Y7/1 灰白色、釉は 7.5Y6/2 灰オリブ色に発色、高台内は露胎、中国同安窯系	土塚 78	17
25	瓦葺	罎	21.8	—	2.5Y8/1 灰白色、外面には煤が付着する	土塚 316	76
26	土師器	皿 N	8.2	15	10YR7/4 におい黄棕色、砂粒含む	土塚 274	68
27	土師器	皿 N	8.2	10	10YR6/4 におい黄棕色、φ 1mm 以下の小礫少量含む	土塚 274	69
28	土師器	皿 N	11.4	15	10YR8/4 浅黄褐色、φ 1mm 以下の小礫少量含む	土塚 274	70
29	土師器	皿 S	12.0	20	10YR8/2 灰色、φ 2mm 以下の小礫少量含む	土塚 274	71
30	瓦葺	罎	12.4	32	外面 2.5Y6/1 黄灰色、内面 7.5Y4/1 灰白色、内面は粗い暗文が入る。底部外面には退化した高台が付く。	土塚 274	72
31	瓦葺	羽釜	25.9	—	7.5Y7/1 灰白色、φ 0.5 ~ 1.5mm の小礫少量含む、外面煤付着	土塚 274	73
32	須恵器	甕	34.1	—	7.5Y8/1 灰白色、φ 1.5mm 以下の小礫少量含む、焼成甘い、補助産	土塚 274	74
33	瓦葺	羽釜	23.5	11.4	2.5Y8/1 灰白色、外面には煤が付着する。φ 2mm の小礫少量含む	柱穴 107	31
34	輸入磁器	白磁口元皿	11.2	30	胎土は N8/ 灰白色、釉は 5GY7/1 明オリブ灰色に発色、中国産。	柱穴 177	39
35	輸入磁器	皿	9.6	—	2.5GY6/1 オリブ灰色、釉は 2.5GY5/1 オリブ灰色に発色、中国同安窯系か。	柱穴 177	40
36	土師器	皿 N	10.2	22	2.5Y7/3 浅黄色、φ 1mm 以下の小礫含む	井戸 82	19
37	土師器	皿 S	14.0	33	2.5Y8/2 灰白色、φ 1mm 以下の小礫含む	井戸 82	18
38	瀬戸	灰釉鉢目皿	14.0	4.3	胎土 2.5Y7/3 浅黄色、釉は 5Y7/2 灰白色に発色、底部内面に却目を、口縁に片口を付ける	井戸 82	20
39	瀬戸	灰釉皿	—	—	胎土 2.5Y6/3 におい黄色、釉は 7.5Y7/2 灰白色に発色、底部内面に文様を施す	井戸 82	21
40	焼締陶器	常滑産実	48.5	—	7.5Y4/1 灰色、φ 6mm 以下の礫を少量含む	井戸 82	23
41	焼締陶器	常滑産実	50.6	—	7.5YR3/2 黒褐色 ~ 7.5YR4/1 褐灰色、φ 8mm 以下の礫を少量含む	井戸 82	22
42	焼締陶	常滑産実	—	—	2.5Y7/2 灰黄色、φ 5mm 以下の礫を含む	井戸 82	24
43	土師器	皿 S	14.0	24	10YR8/3 浅黄色、φ 2mm ほどの小礫少量含む	土塚 118	32
44	土師器	皿 S	14.2	22	7.5YR8/4 浅黄褐色	土塚 118	33
45	土師器	皿 N	12.0	21	2.5Y8/2 灰白色 ~ 7.5YR7/4 におい褐色	溝 240	49
46	土師器	皿 S	13.0	20	2.5Y7/2 灰黄色 ~ 2.5Y6/1 黄灰色	土塚 340	75
47	土師器	皿 S	11.9	20	2.5Y8/3 淡黄色、φ 0.5mm 以下の礫を少量含む	井戸 234	41
48	土師器	皿 S	12.8	23	2.5Y8/3 淡黄色、φ 3mm 以下の礫を少量含む	井戸 234	42
49	瓦葺	罎	25.7	—	2.5Y4/2 暗灰黄色、φ 1mm 以下の礫を少量含む、外面に煤付着	井戸 234	43
50	土師器	皿 Sb	9.0	18	10YR8/2 灰白色、砂粒含む	土塚 272	64
51	土師器	皿 Sb	9.1	16	10YR8/2 灰白色、砂粒含む	土塚 272	62
52	土師器	皿 Sb	9.2	16	10YR8/2 灰白色、砂粒含む	土塚 272	63
53	土師器	皿 S	9.4	19	10YR8/3 浅黄色、φ 1mm 以下の小礫少量含む	土塚 272	65
54	土師器	皿 S	11.9	19	10YR8/2 灰白色、φ 1.5mm 以下の礫を少量含む	土塚 272	66
55	土師器	皿 S	14.0	20	10YR8/2 灰白色、砂粒含む	土塚 272	67
56	土師器	皿 Sb	8.1	17	7.5YR7/6 褐色、φ 0.5mm 以下の礫を少量含む	溝 260	60
57	土師器	皿 Sb	10.0	20	10YR8/3 浅黄色、φ 0.5mm 以下の小礫少量含む	溝 260	59
58	土師器	皿 Sb	12.0	19	7.5YR8/4 浅黄褐色、φ 2mm 程度の小礫含む	溝 260	61
59	土師器	皿 Sb	8.4	20	10YR7/3 におい黄棕色、砂粒含む	溝 235	44
60	土師器	皿 Sb	8.8	—	10YR8/1 灰白色、φ 0.5mm 以下の小礫少量含む	溝 235	45
61	土師器	皿 N	11.9	22	10YR8/4 浅黄褐色、砂粒含む	溝 235	46
62	土師器	皿 N	13.6	20	10YR7/2 におい黄棕色、砂粒含む	溝 235	47
63	輸入磁器	染付皿	10.1	2.6	N8/ 灰白色、中国産	溝 235	48
64	土師器	皿 N	13.0	19	10YR7/4 におい黄棕色、砂粒含む	土塚 244	50
65	土師器	皿 S	14.0	23	10YR6/4 におい黄棕色、φ 2mm 以下の小礫少量含む	土塚 46	11
66	土師器	丸壺	6.8	10.2	5YR7/8 褐色、「天下一帯ミなどノ藤左衛門」銘のスタンプあり。	土塚 46	12
67	土師器	丸壺	7.2	11.6	7.5YR7/6 褐色、「ミなど藤左衛門」銘のスタンプあり。	土塚 46	13
68	土師器	皿 Sb	9.8	20	10YR8/4 浅黄褐色、φ 1mm 以下の小礫少量含む	土塚 36	9
69	土師器	皿 S	11.0	22	10YR8/4 浅黄褐色、砂粒含む	土塚 36	8

番号	種類	器形	口径	器高	色調、特徴	遺構・層名	実測番号
70	土師器	皿 S	12.2	1.9	10YR7/4 に近い黄棕色、砂粒含む	土壇 36	10
71	土師器	皿 S	11.8	2.0	7.5YR8/4 浅黄棕色、φ 3mm 程度の小礫含む	溝 15	4
72	土師器	皿 S	12.0	2.5	5YR7/6 棕色、φ 4mm 程度の小礫少量含む	溝 15	5
73	土師器	皿 S	12.0	1.8	10YR7/4 に近い黄棕色、φ 1mm 以下の小礫含む	溝 15	6
74	陶器器	染付皿	9.9	1.5	10YR8/1 灰白色	溝 15	7
75	土師器	皿 Sb	7.8	1.5	7.5YR7/4 に近い棕色～2.5YR6/6 棕色	土壇 28	2
76	土師器	皿 Sb	7.8	1.4	7.5YR7/4 に近い棕色～2.5YR6/6 棕色、φ 0.5mm 以下の小礫少量含む	土壇 28	3
77	土師器	皿 Sb	7.9	1.5	7.5YR7/6 棕色～2.5YR6/6 棕色、φ 1mm 以下の小礫少量含む	土壇 28	1
78	軒丸瓦	蓮華文			N3/ 暗灰色、φ 2mm 以下の礫含む	土壇 250	87
79	軒丸瓦	蓮華文			N4/ 灰色、φ 2～6mm ほどの礫含む	土壇 250	88
80	軒丸瓦	蓮華文			7.5Y6/1 灰色、φ 2mm 以下の礫含む	井戸 82	81
81	軒丸瓦	巴文			N3/ 暗灰色、φ 2mm 以下の礫含む	土壇 250	89
82	軒丸瓦	巴文			10YR8/4 浅黄棕色、φ 2mm 以下の小礫含む	溝 240	83
83	軒丸瓦	巴文			N3/ 暗灰色、φ 2mm 以下の礫含む	溝 240	84
84	軒丸瓦	巴文			N4/ 灰色、φ 3mm 以下の礫含む	土壇 28	78
85	軒平瓦	花葉文			5Y6/1 灰色、φ 1mm 以下の礫含む	土壇 250	90
86	軒平瓦	唐草文か			N4/ 灰色、φ 3mm 以下の礫多く含む	土壇 251	92
87	軒平瓦	巴文			5Y7/1 灰白色、φ 5mm 以下の礫多く含む	土壇 250	91
88	軒平瓦	刺頭			10YR7/1 灰白色、φ 1.5mm 以下の小礫含む	溝 240	86
89	軒平瓦	波文			10YR7/6 明黄褐色、φ 2mm 以下の小礫含む	溝 240	85
90	軒平瓦	波文			10YR8/4 浅黄棕色、φ 1～2mm ほどの小礫含む	柱穴 340	96
91	軒平瓦	波文			10YR8/4 浅黄棕色、φ 1.5mm 以下の小礫含む	溝 260	93
92	軒平瓦	波文			7.5YR7/6 棕色～N5/ 灰色、φ 1.5mm 以下の小礫含む	溝 260	94
93	軒平瓦	波文			2.5Y8/4 淡黄色、φ 4mm 以下の小礫含む	溝 260	95
94	軒平瓦	波文			2.5Y7/3 浅黄色、φ 1～4mm ほどの小礫含む	溝 235	82
95	軒平瓦	波文			10YR7/4 に近い黄棕色～N3/ 暗灰色、φ 0.5～2mm ほどの小礫少量含む	柱穴 443	97
96	軒平瓦	唐草文			N4/ 灰色、φ 1mm ほどの礫含む	土壇 28	79
97	軒平瓦	唐草文			N3/ 暗灰色～N2/ 黒色、器表は灰土吸着。粘土 N8/ 灰白色。	土壇 28	80
98	瓦	右孔瓦			5Y5/1 灰色、φ 0.5～12mm ほどの礫含む	井戸 82	98
99	瓦	右孔瓦			5Y5/1 灰色～7.5YR8/4 浅黄棕色、φ 1～3mm ほどの礫含む	井戸 82	100
100	瓦	右孔瓦			N4/ 灰色～10YR8/4 浅黄棕色、φ 0.5～4mm ほどの礫含む	井戸 82	99
101	瓦	右孔瓦			10YR6/1 暗灰色、φ 2mm 以下の小礫含む	井戸 82	101
102	瓦	右孔瓦			N4/ 灰色、φ 2mm 以下の礫含む	井戸 82	102
103	石造物	五輪塔火輪			上面円形の凹みを付ける。底面は欠損で不明。側面斜面に梵字を施す。	柱穴 268	103
104	石造物	五輪塔火輪			上面と底面の中央部に円形の凹みを施す。	柱穴 340	104

報告書抄録

ふりがな	みょうほういんけいだい・ほうじゅうじどのあと							
書名	妙法院境内・法住寺殿跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	上村憲章・家崎孝治							
編集機関	古代文化調査会							
所在地	〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中1丁目4番地125-1404							
発行年月日	2013年5月31日							
ふりがな 所取遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
みょうほういんけいだい 妙法院境内・法住寺殿跡	きょうとうしひがしやまく 京都市東山区 うまさちとおひみょうほういん 馬町通妙法院 きたもんまえみょうほういん 北門前妙法院 まよかわらやう 前側町447-1 他	26100		34度 59分 28秒	135度 46分 28秒	2012.11.15 ～ 2013.02.15	571.37 m ²	ホテル建設
所取遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
妙法院境内・法住寺殿跡	寺院跡・離宮跡	平安時代～江戸時代	柱穴、土壙、井戸、溝、石組	土師器皿・甕、須恵器杯・甕、灰軸陶器椀、瓦器椀・羽釜・鍋、焼締陶器甕、国産陶磁器皿、輸入磁器椀・皿、瓦類、有孔甕、石造物五輪塔火輪	法住寺殿建築時の敷地確保のために作り出した段差を確認。平安後期遺構の各時期の柱穴も検出。仏光寺に関連する遺構群の可能性も考えられる。秀吉の大仏造営時の整地層も確認。			

圖 版



1 調査前風景（西から）



2 調査区近景（東から）



1 第1面全景(東から)



2 第2面全景(東から)



1 第2面全景（北西から）



2 第2面段差部分・石組（北西から）



1 第2面段差部分・石組除去後（北西から）



2 南壁西部（北東から）



1 土壙 28 土師器皿出土状況 (北から)



2 溝 15・土壙 46 (東から)



3 溝 15 セクション 1 (西から)



4 溝 15 セクション 2 (北から)



5 溝 15 セクション 3 (北から)



6 土壙 23 堆積状況 (北から)



7 土壙 23 (北から)



8 土壙 36 (東から)



1 溝 240・溝 260 (北から)



2 溝 240 セクション (南から)



3 溝 260 東肩部の石組 (南西から)



4 溝 260 東肩部の石組 (西から)



5 溝 260・溝 235 (北から)



6 土坑 272 (北から)



7 井戸 234 (東から)



8 井戸 82 (北から)



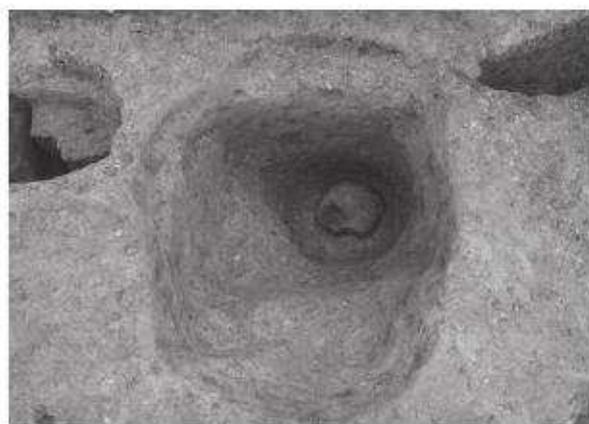
1 土坑 83 (東から)



2 柱穴 132 (北から)



3 柱穴 357 (北から)



4 柱穴 357 根石 (北から)



5 柱穴 375 (北から)



6 柱穴 375 扁形断割り・根石 (北東から)



7 柱穴 340 (北から)



8 柱穴 268 (北から)



1 柱穴127 (北から)



2 柱穴128 (北から)



3 柱穴100 (北から)



4 柱穴150 (北から)



5 柱穴155 (北から)



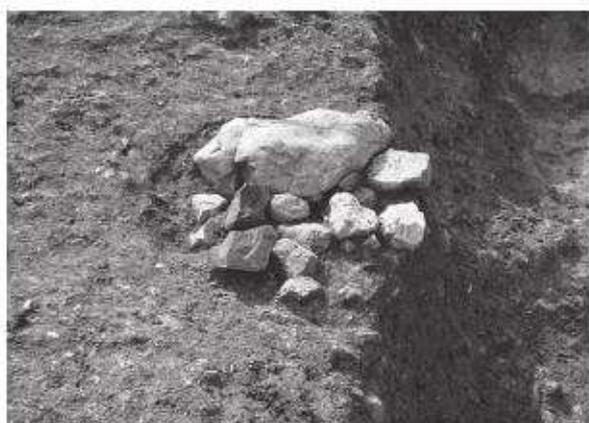
6 柱穴313 (北から)



7 柱穴423 (北から)



8 柱穴165 (北から)



1 土壇 266 (北から)



2 柱穴 168 (北から)



3 柱穴 193 (北から)



4 柱穴 176 (北から)



5 柱穴 215 (北から)



6 左：柱穴 223、右：221 (北から)



7 柱穴 230 (北から)



8 土壇 190 (北から)



1 柱穴 287 (北から)



2 柱穴 288 (北から)



3 左: 柱穴 292、中央: 291、右: 290 (北から)



4 柱穴 281 (北から)



5 左奥: 柱穴 433、右: 353 (北から)



6 柱穴 249 (北から)



7 柱穴 431 (北から)



8 柱穴 349 (北から)



1 柱穴 379 (南から)



2 柱穴 231 (北から)



3 柱穴 305 (北から)



4 柱穴 378 (北から)



5 柱穴 342 (北から)



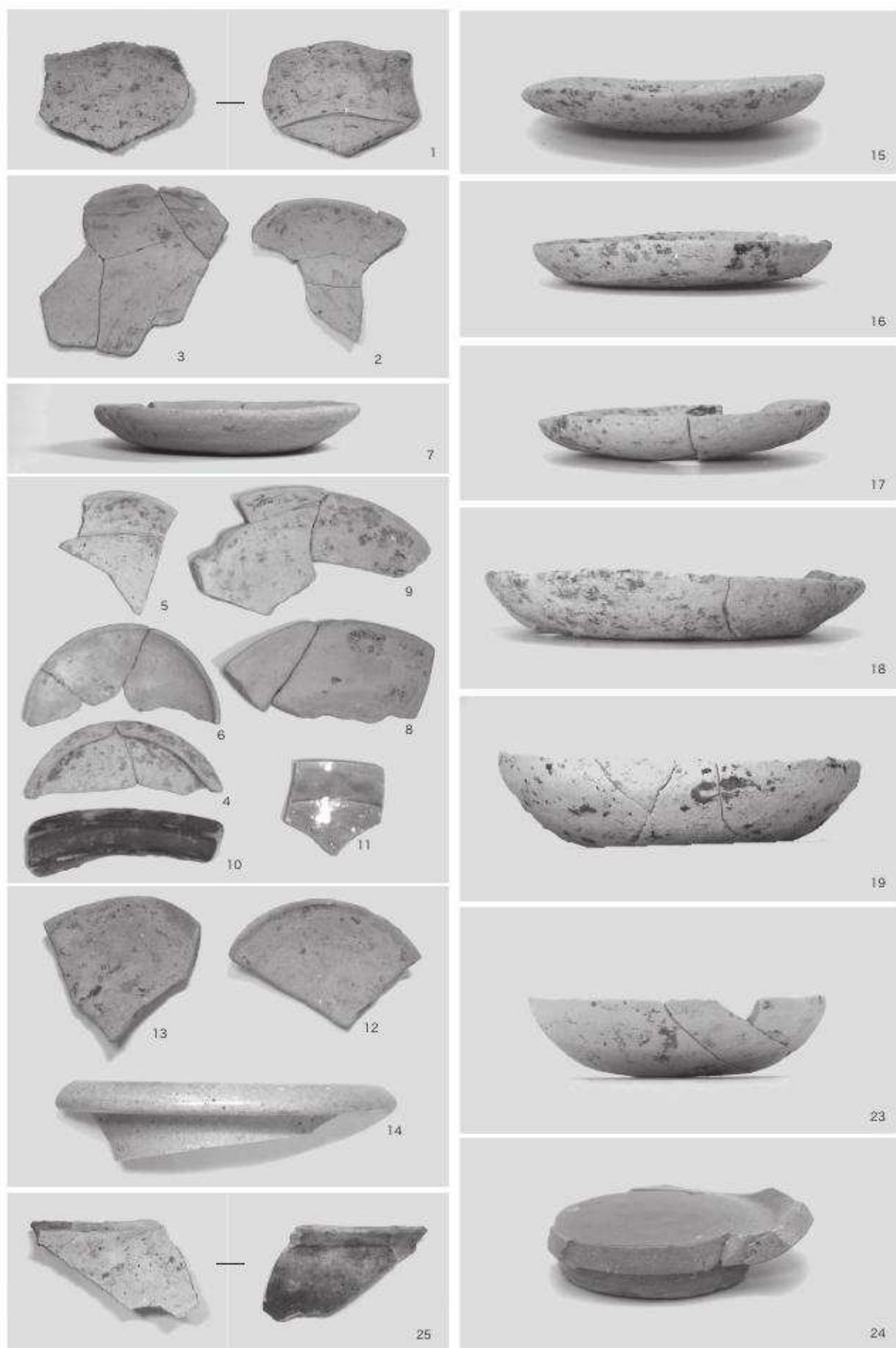
6 柱穴 343 (北から)



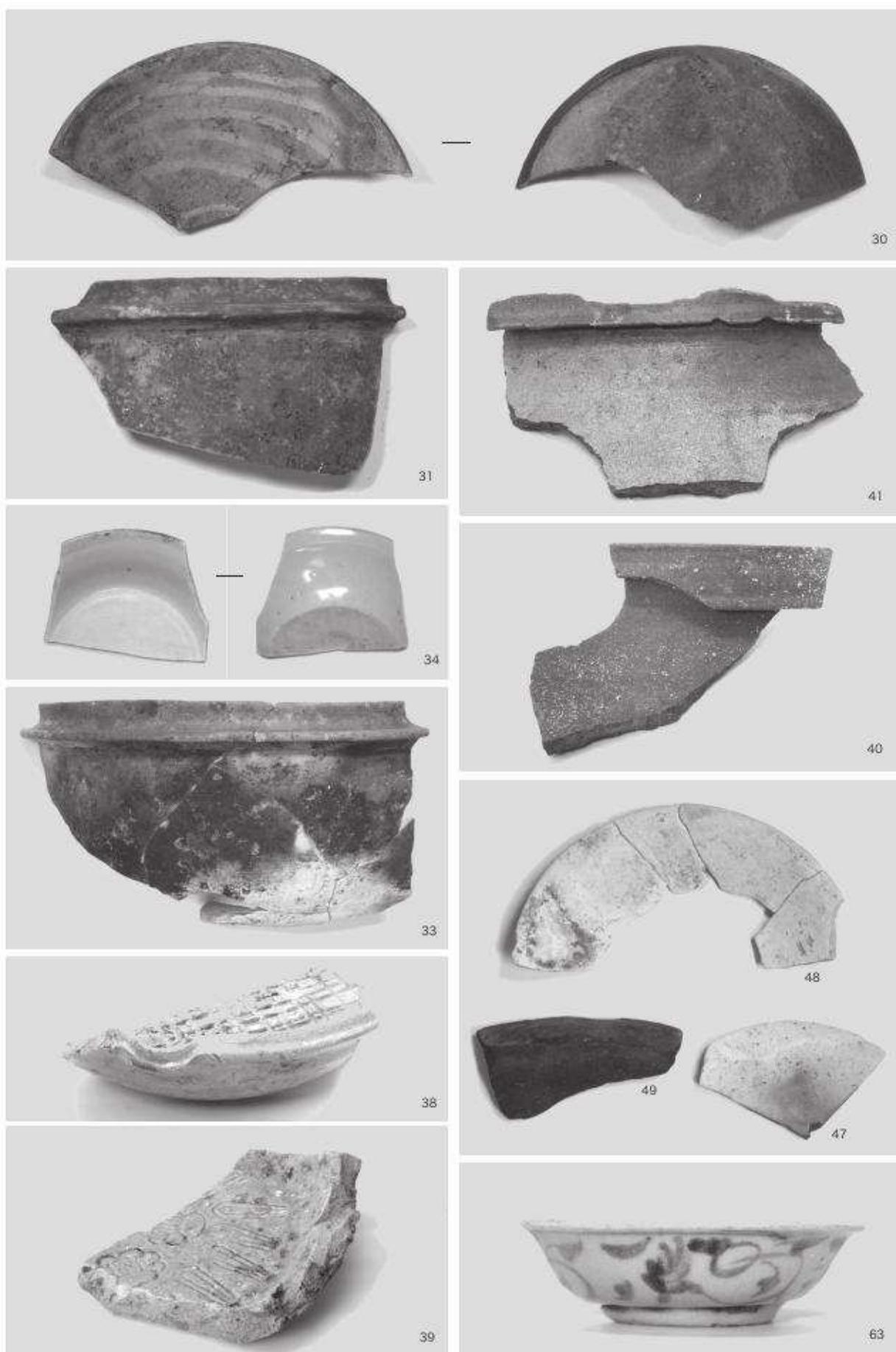
7 柱穴 398 (北から)



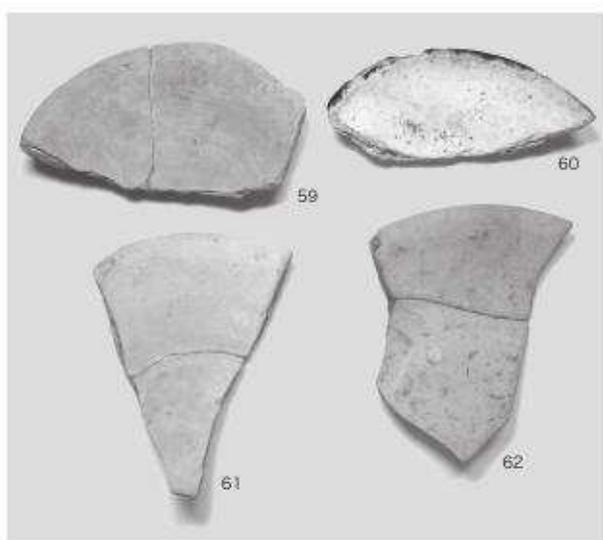
8 柱穴 317 (北から)



柱穴 416 (1)・柱穴 153 (2・3)・土壙 250 (4~11)・土壙 162 (12~14)・土壙 83 (15~19)・土壙 78 (23・24)・土壙 361 (25) 出土遺物



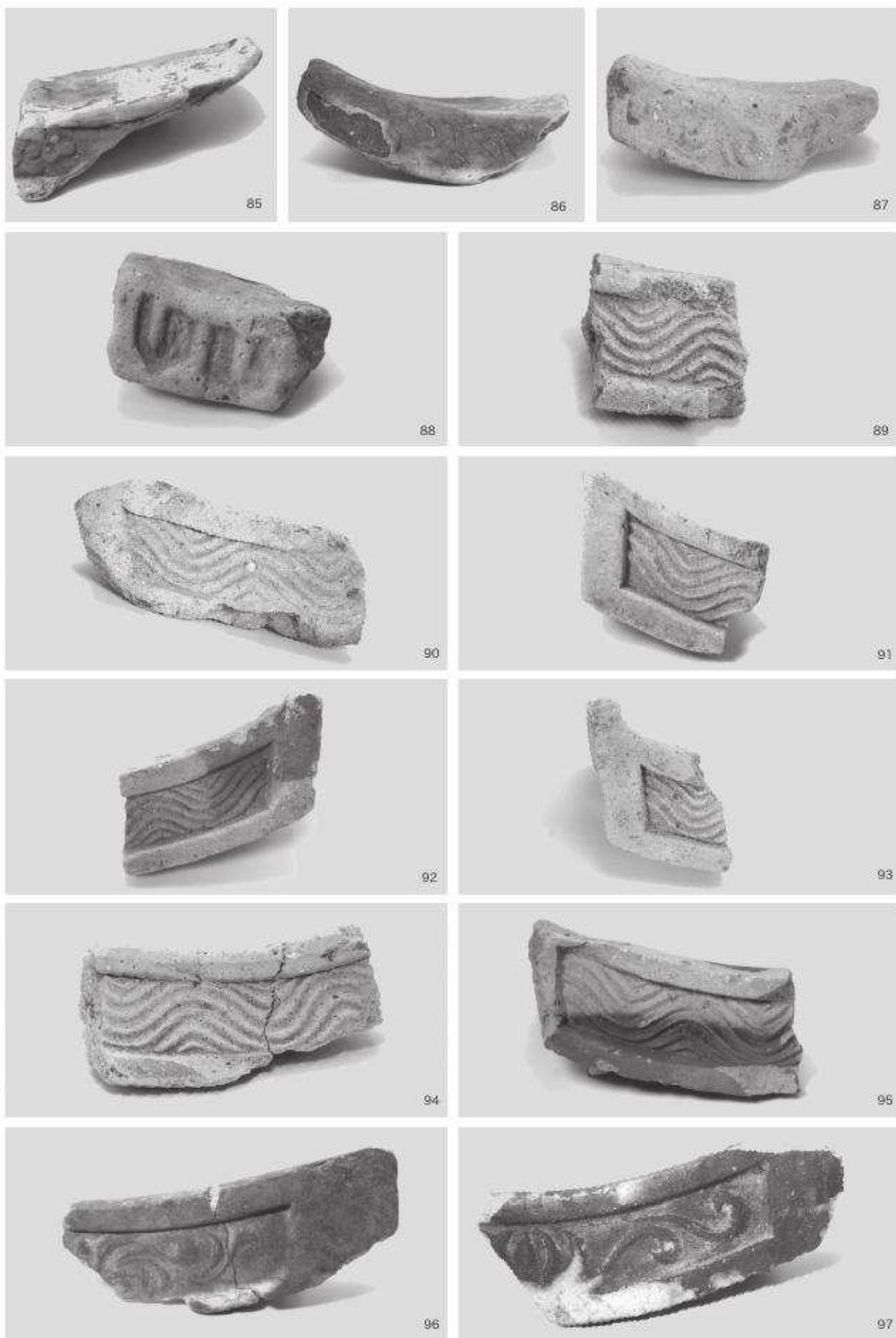
土壙 274 (30・31)・柱穴 107 (33)・柱穴 177 (34)・井戸 82 (38～41)・井戸 234 (47～49)・溝 235 (63)
出土遺物



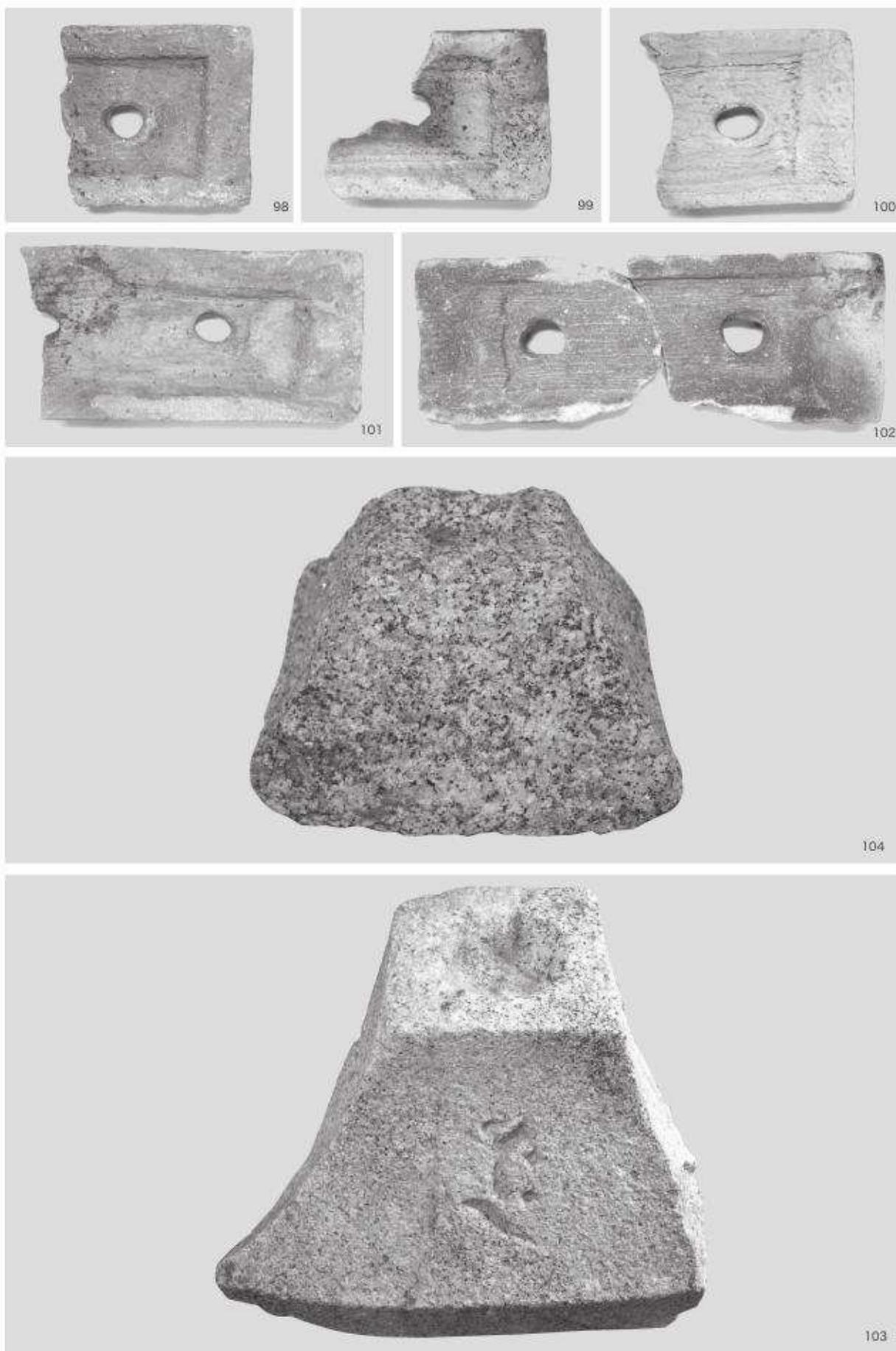
溝 235 (59 ~ 62) ・土壙 46 (65 ~ 67) ・溝 15 (71・74) ・土壙 28 (75 ~ 77) 出土遺物



土壙 250 (78・79・81)・井戸 82 (80)・溝 240 (82・83)・土壙 28 (84) 出土遺物



土壙 250 (85・87)・土壙 251 (86)・溝 240 (88・89)・土壙 340 (90)・溝 260 (91～93)・溝 235 (94)・柱穴 443 (95)・
土壙 28 (96・97) 出土遺物



井戸 82 (98 ~ 102) ・柱穴 268 (103) ・柱穴 340 (104) 出土遺物

妙法院境内・法住寺殿跡

発行日 2013年5月31日

編集
発行 古代文化調査会

住所 〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中1-4-125-1404
TEL (078) 857-6368

印刷 (有)京都編集工房
〒612-0868 京都市伏見区深草直違橋南1-524-24
TEL (075) 643-6978